

60

June 2021
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

PHIL
HAR
MONY

感染症予防対策についての取り組み

みなさまに安心して演奏をお楽しみいただけるように、
以下の感染症予防対策について、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

- 会場内では、必ずマスクを着用し、手洗い、手指の消毒、咳エチケットにご協力ください。
- 感染予防のため、休憩中も含め、客席内ではご自身のお座席以外への着席はご遠慮ください。
- 入退場時および会場内では、まわりの方々と距離を確保した上で行動くださいますよう、ご協力をお願いいたします。また、混雑緩和のために入退場時に、制限をさせていただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 当日は極力接触を避けるため、会場内での当日券販売、チケットの当日精算は行いません。必ず事前に発券されたチケットをお持ちの上、ご来場ください。
- 当日、チケット半券のもぎりは、係員の確認後、お客様ご自身でお願いいたします。
また、プログラムは所定の場所からお客様ご自身でお持ちください。
- ロビー等では大きな声での歓談はお控えください。
- 「ブラボー」等の掛け声はお控えください。
- サイン会は実施しません。また、楽屋口での出演者の入待ち・出待ちはお断りいたします。また出演者への面会やプレゼントもお断りいたします。
- 万が一、ご来場のみなさまの中から新型コロナウイルス感染者が発生した場合には、保健所など公的機関へチケット購入時にいただいたお客様の情報を提供する場合がございます。またその場合、複数枚をご購入いただいた方には、同伴者など、当日ご来場いただいた方の連絡先をお伺いいたします。あらかじめご承知おきください。

-
- 喫茶コーナーは休止しております。
 - 会場内でのお食事はお控えください。また持ち込みもご遠慮ください。
 - クロークは休止しております。
 - ブランケット等の貸し出しサービスは休止いたします。必要に応じて、防寒の備えをお勧めいたします。
 - 会場内で他の公演のチケット販売は行いません。またCD等の販売もございません。

-
- 公演により座席数を制限している場合があります。
 - 会場内のドアノブや座席の手すりなどはあらかじめ消毒を実施します。
 - 会場内の常時換気、開場中および休憩中の客席扉の開放など空気の入替えに努めます。
 - スタッフもマスクの着用等、ご来場のみなさま同様に感染予防の対策を行います。また、業務の内容により、フェイスシールドやビニール手袋の着用をさせていただきます。
 - 厚生労働省による「新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)」の活用を推奨いたします。

Philharmony

CONTENTS
JUNE 2021

6

- 3 [公演プログラム] **サントリーホール** | 6月5日、6日
- 7 [公演プログラム] **東京芸術劇場** | 6月11日、12日
- 12 [公演プログラム] **サントリーホール** | 6月16日、17日
- 18 [特別コラム] **2020-21シーズンを振り返って** 西川彰一
- 19 [シリーズ] **N響百年史 | 第20回 | 近衛秀麿、お預けを食う** 片山杜秀
- 24 特別支援・特別協力・賛助会員
- 28 NHK交響楽団メンバー
- 29 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO Members
- 30 公演情報 (Music Tomorrow 2021 / 夏だ! 祭りだ!! N響ほっとコンサート)
- 31 9月定期公演の聴きどころ——公演企画担当者から
- 33 NHK交響楽団定期公演 2021-22シーズンプログラム
- 表3 役員等・団友

お客様へのお願い



公演中は携帯電話、
時計のアラーム等は
必ずお切りください



演奏は最後の余韻まで
お楽しみください



場内での録画、録音、
写真撮影は固くお断り
いたします



私語、パンフレットを
めくる音など、
物音が出ないように
ご配慮ください



演奏中の入退場は
ご遠慮ください



補聴器が
正しく装着されているか
ご確認ください

Special Thanks



NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援

With Special Support of

岩谷産業株式会社

Iwatani Corporation

 三菱地所株式会社

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

 みずほ銀行

Mizuho Bank, Ltd.

公益財団法人 渋谷育英会

Shibuya Scholarship Foundation

NHK交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

2020年2月、ウィーン・コンツェルトハウスにて
©Lukas Beck

6/5 土 6:00pm

6/6 日 2:00pm

サントリーホール

Suntory Hall

June

5(Sat) 6:00pm

6(Sun) 2:00pm

指揮

井上道義

Michiyoshi Inoue, conductor

コンサートマスター

伊藤亮太郎

Ryotaro Ito, concertmaster

シベリウス

交響曲 第7番 ハ長調 作品105 [21']

アダージョーヴィヴァチッシモーアダージョ
—アレグロ・モルト・モデラート
—アレグロ・モデラートーヴィヴァーチェープレスト
—アダージョーラルガメンテ・モルト
—アフエットウオーソーテンポ・プリモ

— 休憩 (20分) —

ベートーヴェン

交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」

[50']

I アレグロ・コン・ブリオ
II 葬送行進曲: アダージョ・アッサイ
III スケルツォ: アレグロ・ヴィヴァーチェートリオ
IV 終曲: アレグロ・モルト

Jean Sibelius (1865–1957)

Symphony No. 7 C Major Op. 105

Adagio – Vivacissimo – Adagio
– Allegro molto moderato – Allegro moderato
– Vivace – Presto – Adagio
– Largamente molto – Affettuoso – Tempo I

— intermission (20 minutes) —

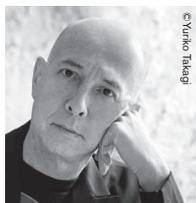
Ludwig van Beethoven (1770–1827)

Symphony No. 3 E-flat Major Op. 55
“Eroica”

I Allegro con brio
II Marcia funebre: Adagio assai
III Scherzo: Allegro vivace – Trio
IV Finale: Allegro molto

Artist Profile

井上道義 (指揮)



1946年東京生まれ。桐朋学園大学で齋藤秀雄に師事。1971年、ミラノ・スカラ座主催ガイド・カンテルリ指揮者コンクールで優勝し、以後国内外で活躍。シカゴ交響楽団、ベルリン放送交響楽団、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、ミラノ・スカラ座フィルハーモニー管弦楽団、レニングラード交響楽団、ベネズエラ・シモン・ボリバルなど海外の著名なオーケストラと共演を重ね、ニュージーランド国立交響楽団首席客演指揮者を務めた。また国内では新日本フィルハーモニー交響楽団音楽監督、京都市交響楽団音楽監督、大阪フィルハーモニー交響楽団首席指揮者、オーケストラ・アンサンブル金沢音楽監督(現桂冠指揮者)を歴任。2007年には日露5つのオーケストラとの「日露友好ショスタコーヴィチ交響曲全曲演奏プロジェクト」を完遂し、2017年には同プロジェクトの録音がCD化された。2014年4月、病に倒れるが、同年10月、N響とのブルックナー《交響曲第9番》で復帰を遂げる。

N響との初共演は1978年5月の第752回定期公演で、以後海外でのコンサートを含む69公演を指揮。ショスタコーヴィチ《交響曲第11番「1905年」》などを演奏した2019年10月の第1921回定期公演は、一般投票によって選ばれる「最も心に残ったN響コンサート2019」で第1位となった。

Program Notes | 沼野雄司

シベリウスとベートーヴェン。かなりタイプの違う作曲家だ。無理やりに共通点を挙げてみるならば、どちらも創作の中心に交響曲を置いたこと、耳の疾病に苦しんだこと、とびきり重要なヴァイオリン協奏曲をひとつだけ、そしてオペラもひとつだけ書いたこと。それから……筆者などはこころで早くも行き詰まってしまう。しかし、今日のプログラムは少々興味深い。後述するように、シベリウス《第7番》とベートーヴェン《第3番》にはちょっとばかり似た部分があるのだ。さて、これは偶然だろうか、それとも？

シベリウス

交響曲 第7番 ハ長調 作品105

20世紀音楽史を概観するとき、叙述するのがもっとも難しい作曲家のひとりにジャン・シベリウス(1865~1957)がいる。あまりにも独特な作曲様式は、後期ロマン派、無調、新古典主義、民族主義、いずれの地点からもすると逃れてしまう。ほかの作曲家とひとくりにグルーピングできないのである。

あえて似ている作曲家を、と言われれば、むしろロックと現代音楽の狭間で活動を続けたグレン・ブランカ(1948~2018)の名を挙げたくなる。倍音が飽和したゆたう、その響きのあり方がよく似ているのだ。いずれにしてもシベリウス作品、とりわけこの《第7番》の魅力は、3/2拍子による茫洋とした音響空間の中で、とてつもない「幸福」と「寂寥」が、平然と同居しているところにある。

この背景には、彼の祖国フィンランドの状況が横たわっている気がしてならない。というのも、独立を果たしたあとに書かれた《第6番》と《第7番》を満たしているのは、紛れもなく一種のノスタルジーであるように感じられるからだ。大きな願いが成就したあとの幸せと虚しさ、と解釈するのはロマンティックに過ぎるだろう。

曲は単一章章、およそ20分強の長さ。もともとは「交響的幻想曲」というタイトルが付いていたが、最終的に番号付き交響曲の系譜に組み入れられた。

進行を逐一追うことはここではしないが、いくつか重要なポイントを挙げておきたい。まずはトロンボーン独奏が重要な意味を担っていること。曲頭からおよそ5分過ぎくらいで最初にあらわれるこの独奏にはぜひ注意を向けていただきたい。次に中央のスケルツォ部分。弦楽器の細かい音型の増殖具合は、ベートーヴェン《英雄》のスケルツォを思わせはしないだろうか？ そして終結部。いくつかの音楽的なエピソードがとぎれとぎれに語られるが、これらは発展せずに堆積して、大きな渦を作り出す。ド音の上ですべての要素が収斂する最後の4小節は、音楽史上でも最大の神秘に満ちた瞬間だろう。

作曲年代	1924年
初演	1924年3月24日、ストックホルムで作曲者自身の指揮による
楽器編成	フルート2(ピッコロ2)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、ティンパニ2、弦楽

ベートーヴェン

交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」

ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン(1770~1827)といえば、いかにも「ドイツ的」な作曲家というイメージがある。

しかし生前の出版譜の大部分では、彼の名前はフランス風に記されているし(ルートヴィヒではなく「ルイ」)、もちろん彼自身、フランス語に堪能だった。当時、音楽も含めたヨーロッパ文化の中心は紛れもなくパリにあり、ゆえに上流社会における公用語といえばフランス語に他ならなかったわけである。

であるから、彼がパリ進出を考えていたのも決して不思議ではない。世界的にも重要なベートーヴェン研究書といえる大崎滋生『ベートーヴェン像再構築』は、これまでほとんど明らかになっていないパリ進出プランの発端から挫折までを、資料から慎重に掘

り起こしている。同書によれば、計画は1803年頃にまでさかのぼり、1805年初頭にはベートーヴェンはパリで華々しく活動を行なう予定だった。

なにより重要なのは、まさに1803年頃(あるいは前年秋)から書き始められた《交響曲第3番》は、パリでの発表を前提にしていた可能性が高いことだ。実際、1803年12月11日、ベートーヴェンが新しい交響曲を「旅行のために取っておこうと」している、と弟子のリースは出版社に書き送っている。この曲の第3楽章では、3本のホルンが華やかなファンファーレを歌いあげるが、この部分などはヨーロッパの首都パリにおける祝祭的な効果が意図されていたと考えることもできよう。

しかしオーストリアが第3次対仏大同盟に参加し、ナポレオンとの全面戦争へと発展してゆく中で、ベートーヴェンのパリ進出プランは必然的に消えざるを得ず、この中で彼は「ボナパルト」という名がはっきりと記されていた表紙の献辞を消さざるを得なかった……。

詳細については先の著作を参照いただきたいのだが、半ば伝説になっている「ナポレオンに献呈しようとしたが、彼が自ら皇帝の座についたことに失望して、その名を表紙から抹消した」というエピソードと比べた時に、この説がはるかに強い説得力を持っていることは明らかだろう。

第1楽章は強烈な和音の2連発で始まるが、大規模な展開部の終盤では、さらに大胆な不協和音があらわれて聴き手を驚かせる。第2楽章は葬送行進曲。先のパリ進出という点から考えると、フランス革命以後の葬送行進曲の系譜に連なるものとして作曲されたのかもしれない。第3楽章はスケルツォ。オーボエが活躍する主部を経て、中間部では突如としてホルンの三重奏があらわれて祝祭的な気分を横溢させる。この部分、ホルン奏者の腕の見せ所であると同時に、楽曲全体のひとつの肝ともいえよう。

第4楽章は旧作の《パレエ音楽「プロメテウスの創造物」》の主題を用いた変奏曲。あらためて考えてみると、対位法の技術が存分に生かされているとはいえ、この楽章の「軽さ」は交響曲の終楽章としてはかなり異質だ。やはりここにもフランスの影が、と考えるのはうがちすぎだろうか。

作曲年代	1803年(あるいは1802年)～1804年
初演	[公開初演]1805年4月7日、アン・デア・ウィーン劇場において作曲家自身の指揮による
楽器編成	フルート3、オーボエ3、クラリネット3、ファゴット3、ホルン4、トランペット2、ティンパニ1、弦楽(指揮者の意向により、本来の編成に管楽器を増やして演奏します)

沼野雄司 | Yuji Numano

桐朋学園大学音楽学部教授。おもな研究領域は20世紀から21世紀の音楽。

6/11 **金** 6:30pm
6/12 **土** 2:00pm

東京芸術劇場

Tokyo Metropolitan Theatre

June

11(Fri) 6:30pm

12(Sat) 2:00pm

指揮

下野竜也

Tatsuya Shimono, conductor

コンサートマスター

篠崎史紀

Fuminori Maro Shinozaki, concertmaster

※終演時刻を繰り上げるため、11日(金)は6:30pmの開演とします。
また両日とも休憩は15分間とさせていただきます。

フィンジ

前奏曲 作品25 [5']

ブリテン

シンフォニア・ダ・レクイエム 作品20 [21']

I 涙の日

II 怒りの日

III 永遠の安息を与えたまえ

— 休憩 (15分) —

ブルックナー

交響曲 第0番 二短調 [46']

I アレグロ

II アンダンテ

III スケルツォ: プレスト—トリオ: ゆっくりと、おだやかに

IV 終曲: モデラート—アレグロ・ヴィヴァーチェ

指揮者の意向により、フィンジとブリテンは続けて演奏される予定です。

Gerald Finzi (1901–1956)

Prelude Op. 25

Benjamin Britten (1913–1976)

Sinfonia da requiem Op. 20

I Lacrymosa

II Dies irae

III Requiem aeternam

— intermission (15 minutes) —

Anton Bruckner (1824–1896)

Symphony D Minor “Nullte”

I Allegro

II Andante

III Scherzo: Presto – Trio: Langsamer und ruhiger

IV Finale: Moderato – Allegro vivace

Following the conductor's wishes, Finzi and Britten will be performed without a break.

Artist Profile

下野竜也 (指揮)

©Nagaya Yamaguchi (Studio DVA)

1969年鹿児島生まれ。鹿児島大学教育学部音楽科を経て、桐朋学園大学音楽学部附属指揮教室に学ぶ。1996年、シエナのキジアーナ音楽院に留学し、オーケストラ指揮のディプロマを取得。1997年、大阪フィルハーモニー交響楽団の指揮研究員となり、朝比奈隆などの巨匠の下で研鑽^{けんさん}を積んだ。1999年から2001年まで、文化庁派遣芸術家在外研修員としてウィーン国立演劇音楽大学に留学。

2000年、東京国際音楽コンクール(指揮)で第1位および齋藤秀雄賞を受賞、翌年にはブザンソン国際指揮者コンクールで優勝し、以降精力的な活動を開始。ローマ聖チェチーリア国立アカデミー管弦楽団、ミラノ・ヴェルディ交響楽団、ストラスブル・フィルハーモニー管弦楽団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団、シュトゥットガルト放送交響楽団など海外著名オーケストラに客演する一方、国内では読売日本交響楽団で正指揮者および首席客演指揮者、京都市交響楽団で常任客演指揮者および常任首席客演指揮者を歴任。2011年に広島ウインドオーケストラ音楽監督に、2017年には広島交響楽団の音楽総監督に就任した。

N響を初めて指揮したのは2005年。以降定期的に共演を重ね、20世紀音楽などを取り入れた意欲的なプログラミングで注目を集める一方、最近ではシューマンやブラームスなどドイツ・ロマン派の交響曲にも取り組んでいる。

Program Notes | 後藤菜穂子

世の中には日の目を見ることのない音楽作品がどれほどあるのだろう。本日取り上げられる3つの作品は、ひとつ間違えば今日まで埋もれたままだったかもしれないものだ。実際、フィンジとブルックナーの作品は、生前に公の場で演奏されることはなく、作曲家の死後ようやく初演、出版された。指揮者の下野竜也はかねてよりこれらの作品にあたたかい眼差しを注ぎ、ブリテンの《シンフォニア・ダ・レクイエム》は2010年5月のNHK交響楽団の定期公演で演奏したのをご記憶の方もおられるだろう。こうした曲折を経た曲にこそ、作曲家の本質を見出させるのかもしれない。

フィンジ**前奏曲 作品25**

ジェラルド・フィンジ(1901~1956)は、ヴォーン・ウィリアムズ(1872~1958)、ホルスト(1874~1934)に続く世代の英国の作曲家。この時代の音楽家は多かれ少なかれ第1次世界大戦の影響を受けており、フィンジの場合は自身は従軍しなかったが、作曲

の師アーネスト・ファーラーの戦死に心の痛手を負った。平和主義者で菜食主義者、母国の田園風景をこよなく愛し、結婚後は都会の喧噪^{けんそう}を離れてイングランド南部に住み、作曲や18世紀の英国音楽の校訂・出版などを手がけるいっぽう、果樹園で珍しい品種のりんごを栽培したことで知られる。代表作に《カンタータ「ディエス・ナタリス」》、《チェロ協奏曲》などがある。

弦楽のための《前奏曲》は、1920年代にオーケストラのための三部作、《The Bud, the Blossom, and the Berry（蕾^{つぼみ}、花、実）》の一部として構想されたが、計画は途中で頓挫。のちに弦楽のための《前奏曲》として仕立て直すものの、結局、生前に発表することはなく、死の翌年に長男のクリストファーが初演した。

シンプルな3部形式。低弦の厳かな響きに支えられた哀調を帯びた旋律で始まり、やがて長調に転じる。中間部では、首席奏者たちによるソロが繰り返される。そのやや古風な曲調は、親しかったヴォーン・ウィリアムズの世界に通じるものがある。

作曲年代	1920年代
初演	1957年4月27日、パークシャー、ストッククロス、セント・ジョン教会、クリストファー・フィンジ指揮、ニューベリー・ストリング・プレイヤーズ
楽器編成	弦楽

ブリテン

シンフォニア・ダ・レクイエム 作品20

ベンジャミン・ブリテン（1913～1976）の《シンフォニア・ダ・レクイエム》は、日本国の紀元2600年（1940年）を祝う楽曲として委嘱された。ところが、曲を受け取った日本側は「このようなメランコリーな曲調のキリスト教の宗教曲は祝典にふさわしくない」と却下してしまう。同様の委嘱を受けたR. シュトラウス（ドイツ）、イベール（フランス）、ピッツェッティ（イタリア）、ヴェレシュ（ハンガリー）の4作品は1940年12月に東京と大阪で初演された。

ブリテンの書簡集をひも解くと、1939年9月の最初の打診から、翌年11月に却下の通知が届くまでの状況が浮かび上がってくる。まず、当時彼がアメリカに長期滞在中であったことが事情をややくしくした。この委嘱は、外務省からロンドンの在英日本大使館、ブリティッシュ・カウンシルを経て、出版社ブージー & ホークスにもたらされ、そこからニューヨークのブリテンに書面で伝えられたが、多くの手を経る中で、祝賀行事の性質が正しく伝達されなかったと思われる。「紀元2600年を祝うオーケストラ作品で、交響曲、交響詩、交響組曲、序曲、または行進曲のうちのいずれか」との委嘱に対し、ブリテンは愛国主義的な曲でなくてよいのなら、と引き受ける。そもそも日本を礼賛するような曲を書く気はなかったのだ。その後出版社に「Sinfonia da requiemという題の短い交響的作品を書こうと思う」と伝えており、さらに作曲中にも「戦争に対する自分の考

えと、両親への追悼を組み合わせた曲」と友人に宛てて述べている。すなわち、ブリテン自身は内容について先方の了承を得たという前提で作曲を進めていたわけだ。

結局どこでボタンの掛け違いが起こったのかは今や知る由もないが、実際には日英の情勢の悪化も関係していたのかもしれない。ブリテンは不採用の通達に気分を害したものの、翌年のニューヨークでの初演が決まっていたこともあり、作曲料を返却しなくてよいと知ってじきに立ち直ったようである。そのときには、1956年に自分が日本を訪れるとも、NHK交響楽団とこの作品を演奏するとも想像さえしていなかっただろう。

作品は作曲者の亡き両親に捧げられており、3つの楽章が切れ目なく演奏される。〈涙の日(ラクリモーサ)〉は弔いの音楽。ティンパニの鋭く規則的な打音で始まり、チェロとファゴットがこの楽章の核となるモチーフを提示、さまざまな形で展開されていく。やがて弦楽器の執拗なシンコペーションと金管の咆哮が重なり頂点に達する。フルートのフラッターで始まる〈怒りの日(ディエス・イレ)〉は荒々しく疾走するスケルツォ風の楽章。中間部のサクソフォーンの印象的なソロは〈涙の日〉のモチーフに基づく。そして、通常はレクイエムの冒頭にくる〈永遠の安息を与えたまえ〉がここでは最後に置かれる。戦の終わった静けさの中、ハープの心地よいリズムに乗って平和への祈りが紡がれる。若きブリテンのエッセンスの詰まった力作である。

作曲年代	1939～1940年
初演	1941年3月29日、ニューヨーク、カーネギー・ホール、ジョン・バルビローリ指揮、ニューヨーク・フィルハーモニー交響楽団(現ニューヨーク・フィルハーモニック) [日本初演] 1956年2月18日、作曲家自身の指揮、NHK交響楽団
楽器編成	フルート3(ピッコロ1、アルト・フルート1)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット3(Esクラリネット1、バス・クラリネット1)、ファゴット2、コントラファゴット1、アルト・サクソフォーン1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ1、大太鼓、シンバル、サスペンデッド・シンバル、小太鼓、タムリン、ムチ、シロフォン、ハープ2、ピアノ1、弦楽

ブルックナー

交響曲 第0番 二短調

アントン・ブルックナー(1824～1896)の伝記を著した音楽学者の根岸一美氏は、本日演奏される《交響曲ニ短調》について、「第0番」の代わりに「無効」という名称を提唱している(なおドイツ語では、第0番を意味する“Nullte”と呼ばれることが多い)。ブルックナーは当初、この交響曲の自筆譜に「第2番」と記したが、後年それを取り消して「第0番」とし、「無効(annuliert)」などと書き入れたからだ。この「無効」という名称の是非は別にしても、ここで強調すべき点は、《交響曲第1番》の前に書かれたから「第0番」なのではなく、作曲家自身が無効、無価値という意味で「0」と付けたということである。

そもそも、ブルックナーの生前、この作品は公の場で発表されることはなかった。ただ、演奏用のパート譜一式が存在することから、1870年頃にウィーン・フィルの内々の試演会で取り上げられた可能性が指摘されている。その際に、指揮者から批判されて曲を封印したのではないとも言われてきた。それでも人生の最後まで楽譜を大切に保管していたからには、未熟ながらもひとつの到達点として思入れがあったのかもしれない。

この交響曲の成立時期についても、ブルックナー研究者の間では長らく議論されてきた。現存している自筆譜には作曲の日付が記されており、1869年1月24日にウィーンで開始、同年9月12日にリントで完成したことは判っている。すなわち《交響曲第1番》(1865～1866)と《第2番》(1871～1872)のあいだに書かれたことになる。しかしながら、1960年代にこの曲の校訂譜を編纂したL. ノヴァークは、その自筆譜は浄書譜であって、実際には1863～1864年——すなわち《交響曲第1番》より以前——に作曲されたという説を打ち出した。ただそれを裏付けする資料はなく、今では1869年説が定着している。全曲の初演は作曲家の死から約30年後の1924年10月12日に、ウィーン近郊のクロスターノイブルクで、ブルックナーの熱心な信奉者であったフランツ・モイスルの指揮によって行なわれた。

4つの楽章から構成され、のちの作品にくらべると透明感のあるテクスチュアが特色だ。また同じニ短調ということもあり、第1楽章の出だしやコーダ、第2楽章などにベートーヴェンの《第9》の影響が見て取れる。

第1楽章アレグロでは、ヴァイオリンによる16分音符の第1主題、たおやかな第2主題、そしてコラル風の第3主題が提示され、それらが絡み合う展開部は静謐に始まるが、やがて弦のユニゾンの上で金管が高らかに鳴り響く。第2楽章アンダンテ(変ロ長調)は瞑想的な曲想の中、弦楽器群と木管群が対話を繰り返しながら進んでいく。第3楽章は急速なスケルツォだが、のちの作品ほど重々しくなく、弦の音型の軽快さはメンデルスゾーンをも想起させる。長調のトリオ部分は優美で親密さをもつ。終楽章はモデラートの導入部ののち、アレグロ・ヴィヴァーチェの主部で提示される2つの主題が対位的に展開、最後はニ長調の輝かしいコーダで締めくくられる。

作曲年代	1869年
初演	1924年5月17日(第3、4楽章のみ)、1924年10月12日(全曲)、いずれもクロスターノイブルク、フランツ・モイスル指揮、クロスターノイブルガー・フィルハーモニー管
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ1、弦楽

後藤菜穂子 | Nahoko Gotoh

ロンドンを拠点とする音楽ライター、翻訳家。訳書に『〈第九〉誕生』、『オックスフォード・オペラ事典』(共訳)など。

6/16 **水** 7:00pm
6/17 **木** 7:00pm

サントリーホール

Suntory Hall

June

16(Wed) 7:00pm

17(Thu) 7:00pm

指揮

パーヴォ・ヤルヴィ

Paavo Järvi, conductor

ヴァイオリン

青木尚佳

Naoka Aoki, violin

コンサートマスター

伊藤亮太郎

Ryotaro Ito, concertmaster

アルヴォ・ペルト

スンマ(弦楽合奏版) [5']



エストニア・日本友好100周年

シベリウス

ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品47

[35']

I アレグロ・モデラート

II アダージョ・ディ・モルト

III アレグロ、マ・ノン・タント

— 休憩(20分) —

ニルセン

交響曲 第4番 作品29「不滅」[36']

I アレグロ

II ポーコ・アレグレット

III ポーコ・アダージョ・クワジ・アンダンテ

IV アレグロ

Arvo Pärt (1935–)

Summa (String Orchestra Version)

Jean Sibelius (1865–1957)

Violin Concerto D Minor Op. 47

I Allegro moderato

II Adagio di molto

III Allegro, ma non tanto

— intermission (20 minutes) —

Carl Nielsen (1865–1931)

Symphony No. 4 Op. 29

“The Inextinguishable”

I Allegro

II Poco allegretto

III Poco adagio quasi andante

IV Allegro

Artist Profiles

パーヴォ・ヤルヴィ(指揮)



NHK交響楽団首席指揮者として6年目のシーズンを迎えたパーヴォ・ヤルヴィは、2020年2月から3月にかけて、ロンドン、パリ、ウィーン、アムステルダム、ベルリンなど7か国9都市をめぐる、N響と2度目となるヨーロッパ公演を指揮し、現地の聴衆やメディアから前回に勝るとも劣らない称賛を受けた。さらに同年6月には英『グラモフォン』誌が主催する「グラモフォン・クラシカル・ミュージック・アワード2020」において、同ツアーや自身がN響を指揮した一連のレコーディングなどが高く評価され、N響が「オーケストラ・オブ・ザ・イヤー」にノミネートされるなど、N響の世界での存在感の向上に大きな役割を果たしている。

エストニアのタリン生まれ。現地で打楽器と指揮を学んだ後、アメリカのカーティス音楽院で研鑽を積み、バーンスタインにも師事。シンシナティ交響楽団音楽監督、hr交響楽団首席指揮者、パリ管弦楽団音楽監督などを歴任。現在は、ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団芸術監督、チューリヒ・トーンハレ管弦楽団の音楽監督兼首席指揮者、自身が創設したエストニア祝祭管弦楽団芸術監督などを務める。ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団などの名門オーケストラにも客演し、現代を代表する指揮者のひとりとして、世界で活躍している。

青木尚佳(ヴァイオリン)



1992年東京生まれ。3歳でヴァイオリンを始める。桐朋学園大学音楽学部ソリスト・ディプロマ・コースに最年少で合格し、同コースで幼少期から学ぶ堀正文に師事。2011年英国王立音楽大学に留学し、卒業時には全卒業生の中から男女各1名ずつ贈られるタゴール・ゴールド・メダルをチャールズ皇太子より授与された。その後、英国王立音楽院で藤川真弓に、ミュンヘン音楽大学でアナ・チュマチェンコに師事。2004

年に第5回若い音楽家の為のチャイコフスキー国際音楽コンクールで最年少ディプロマを授与されたのを皮切りに数多くのコンクールで受賞。2014年にはロン・ティボー・クレスパン国際コンクールでは第2位となり、あわせて協奏曲の最良の解釈に贈られるモナコ大公アルベール2世賞を受賞した。2021年1月、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターに就任。ソリストデビューは2010年5月のN響とのバガニーニ《ヴァイオリン協奏曲第1番》でのこと。N響とソリストとしての共演は2017年に引き続き、今回3度目。

Program Notes | 神部 智

フィンランドのジャン・シベリウス(1865~1957)とデンマークのカール・ニルセン(1865~1931)は、共にシンフォニックな傑作を数多く残した北欧の巨匠である。そんな両者の代表作を並べて聴ける機会は本当に貴重だ。どこまでも透明で深遠なシベリウスと人懐こいニルセン。表面的な相違はさておき、彼らの音楽の奥底にうずまいている北国の魂、清冽なバイタリティに耳を傾けたい。エストニア出身のアルヴォ・ペルト(1935~)の時代を超えた響きは、両者の意外な結びつきを見出すきっかけになるかもしれない。

ペルト

スンマ(弦楽合奏版)

エストニア生まれの作曲家アルヴォ・ペルトは、第2次世界大戦後の青年期を旧ソ連の勢力下で過ごしながらも、新しい作曲技法による前衛的な作風でキャリアを出発させた。だが芸術の最先端をひたすら追い求める姿勢に疑問を感じた彼は、数年間の沈黙期を設けることにする。そして逆に視線を遙か過去へと注ぐようになり、「音楽の根源とは何か」という問題に向かうのである。こうしてたどり着いたのが、ペルトの代名詞ともいえる「ティンティナブリ(鈴声)様式」だ。

シンプルな三和音を軸としつつ、特定のメロディ、リズムとテンポで響きを繊細に彩るティンティナブリ様式が最初に用いられたのは1970年代半ばである。今回演奏される《スンマ》もこの作風に基づいている。《スンマ》は当初、ラテン語のクレド(ミサ典礼文のひとつ)を歌詞とする無伴奏合唱曲として創作されたが、弦楽四重奏版や弦楽合奏版など、後にさまざまな編成版が世に送り出された。「私の最も厳格で謎めいた作品」とペルト自身が述べた通り、瞑想的な曲調が永遠の刻をきざみ続けるような《スンマ》は、素朴なサウンドの奥に複雑な音の運動が織り込まれた不思議な曲である。

作曲年代	[無伴奏合唱版]1977年
	[弦楽合奏版]1991年
初演	弦楽合奏版は1991年、ギドン・クレーメル指揮、ヨーロッパ室内管弦楽団
楽器編成	弦楽

シベリウス

ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品47

ジャン・シベリウスが《ヴァイオリン協奏曲》に着手した1903年から1905年にかけては、彼の周りで大きな環境の変化が生じた時期である。支配国ロシアの圧政に抵抗し、

ますます軍国主義化していく母国フィンランド。高まるナショナリズム。右傾化する人びと。そうした社会情勢に危機感を抱いたシベリウスは1904年9月、不穏な空気が漂う首都ヘルシンキを離れ、森と湖に包まれたヤルヴェンパーに家族と移り住むことにする。

この環境の変化は、シベリウスの作風にも見逃せない影響を与えた。現在残されている《ヴァイオリン協奏曲》の初稿と改訂稿を比べると、その表現世界の違いに驚くばかりだ。1904年初頭に発表された前者は都会の混沌たる世界、1905年秋に披露された後者は澄み切った大自然の峻厳とした世界、といえよいだらうか。改訂稿では、まるで重苦しいナショナリズムの足枷から解放されたかのように、作曲者のみずみずしい息遣いがはっきり聞こえてくるのである。初稿の欠点を自覚したシベリウスは、曲を大胆に切り詰める改訂作業を通して、目指すべき新たな表現へと向かっていく。その意味で、《ヴァイオリン協奏曲》は重厚な民族ロマン主義から距離をおき、より清らかな古典主義の方向へ足を踏み入れようとしていたシベリウスの作風変遷期に位置づけられる作品といえよう。

《ヴァイオリン協奏曲》の改訂稿がカレル・ハリール独奏、リヒャルト・シュトラウス指揮、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団により初演された際、シベリウスはコンサートに臨むことができなかった。ベルリンの聴衆は作品をおおむね好意的に受け取ったようだが、なかには批判する者もあり、例えばヴァイオリンの大家ヨーゼフ・ヨアヒムは「単調な上に不快で飽き飽きする」と挑発的な言葉を残している。それを聞いたシベリウスは珍しく感情をあらわにし、「尊敬すべきヨアヒム氏は本当に気の毒な人物である。彼は私たちの時代精神をまったく理解しようとしていない。過去にとらわれたままなのだ」と述べ、ヨアヒムに厳しい反撃を加えたという。この毅然とした態度からも、シベリウスが《ヴァイオリン協奏曲》の改訂稿に強い自信を抱いていたことは間違いない。

第1楽章(アレグロ・モデラート)は、ヴァイオリン独奏による第1主題の提示で神秘的に幕を開ける。この主題に含まれる付点リズムや下行5度、3連符の動きは、後の展開で巧みに利用されることになる。圧巻は中間部に配置されたヴァイオリン独奏のカデンツァで、そこに見出される素材の展開は見事の一言に尽きる。

第2楽章(アダージョ・ディ・モルト)は、歌心にあふれた叙情的な緩徐楽章。全体の構成は、曲の前半に登場する3つの楽想が後半で巧みに変奏される2部形式と見ることができる。

第3楽章(アレグロ、マ・ノン・タント)はコンパクトながら、協奏曲のフィナーレとして申し分ない内実を備えている。ソリストには高度な演奏技術が求められるが、それを力強く支える管弦楽の伴奏と相まって、終始スリリングな展開が繰り返される。

作曲年代	1903～1905年
初演	[初稿] 1904年2月8日、ヴィクトル・ノヴァチェク独奏、作曲家自身の指揮、ヘルシンキ・フィルハーモニー管弦楽団 [改訂稿] 1905年10月19日、カレル・ハリール独奏、リヒャルト・シュトラウス指揮、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ1、弦楽、ヴァイオリン・ソロ

ニルセン

交響曲 第4番 作品29「不滅」

デンマークの作曲家カール・ニルセンは、生涯に6つの交響曲を残した。それらの作曲年代は1890年代初頭から1920年代半ばで、同年生まれのシベリウスのそれとほぼ重なる。なかでも1916年に初演された《交響曲第4番「不滅」》は、ニルセンの代表作。第1次世界大戦（1914～1918）の困難な時期に着手されたにもかかわらず、そのエネルギーで前向きな曲調は、戦争という人類の悲劇を乗り越えようとする作曲者のヒューマニズム精神に満ちている。

ニルセンによると、交響曲に付された「不滅」というタイトルは、「滅ぼし難きもの」や「消し難きもの」を意味するという。それは決して抑え込むことのできない、あふれんばかりの生命力をイメージさせる。とすると、この交響曲が内側に蓄えている膨大なエネルギーは、「永遠に繰り返される生命の意志」と捉えることもできる。

《交響曲第4番》が発表された当時、第1次世界大戦で多くの人びとの命が無残に奪われていったのは、まさに皮肉というほかない。非人道的な戦争に対する魂の抵抗——ニルセンの交響曲が聴き手に感銘を与えるのは、そうした普遍的メッセージを帯びているからであろう。

ニルセンの交響曲は、希望に満ちていたかと思うと突然、絶望の淵に沈んだりするなど、音楽表現の振幅がとて大きい。またポリフォニック（対位的）な書法を好んだニルセンは、マーラーのように複数の旋律を縦横無尽に組み合わせることで現代的な響きを創出する手法にも長けていた。円熟期に作曲された《交響曲第4番》でも、そうした特徴をはっきり見出すことができる。

《交響曲第4番》は、4つの個性的な部分が切れ目なく連結してドラマティックに展開していく単一楽章形式が取られる。バイタリティある第1部と第4部に挟まれる形で、叙情的な第2部、悲劇的な第3部が配置されている。従来の考え方とは一線を画した調構成を示し、ニ短調で始まるものの最後はホ長調で幕を閉じるのも興味深い。

第1部（アレグロ）では性格の異なる2つの主題が登場し、ソナタ形式風に展開処理さ

れる。特に、クラリネットで静かに奏される第2主題は第4部の終盤で再び現われ、全体の有機的統一に大きく寄与することになる。木管楽器が主導する第2部（ポーコ・アレグレット）は穏やかな曲調に変化し、素朴な旋律とともに一時の安らぎが得られる。しかし突然、ヴァイオリンが世界を切り裂くような旋律を奏でると、第3部（ポーコ・アダージョ・クワジ・アンダンテ）に入る。ここでは悲劇的な曲調のなか、緊迫感が徐々に高められていく。その緊張が頂点に達すると第4部（アレグロ）につながられ、希望の光を求める旅路が始まる。特徴的なのは2群に分かれたティンパニで、その激しい連打の応酬はまさに魂の闘争のようだ。最後は暗鬱とした気分を振り払うように堂々としたクライマックスを形成し、輝かしい終結を迎える。

作曲年代	1914～1916年
初演	1916年2月1日、作曲家自身の指揮、コペンハーゲン音楽協会
楽器編成	フルート3(ピッコロ1)、オーボエ3、クラリネット3、ファゴット3(コントラファゴット1)、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ2、弦楽

神部 智 | Satoru Kambe

茨城大学大学院教育学研究科教授。専門は19世紀から20世紀にかけての西洋芸術音楽の歴史的、美学的研究。

100年近い歴史で初めての定期公演休止

2020-21シーズンのN響はご存じの通り、1年間の定期公演休止という、100年近い歴史の中で前例のない、苦渋の選択を余儀なくされました。パーヴォ・ヤルヴィのマーラーやショスタコヴィチ、プロムシュテットの北欧&ドイツ・プログラム、待望の初共演となる予定だったマイケル・ティルソン・トーマス……。幻と消えた公演に思いをめぐらすたびに、悔み切れない感覚が残ります。振り返ればこの1年は、刻々と変わる状況に合わせながら、感染症対策と代替公演の企画締め切りに追われる毎日でした。

この間、海外アーティストの入国制限やステージ上のディスタンスの制約があって、N響の本領が発揮できる大編成の作品はあまり演奏できませんでしたが、結果的には予期せぬ収穫もありました。

若手音楽家やベテラン日本人指揮者との共演

そのひとつは、普段なかなかチャンスが作れない、若手音楽家との共演の場を多数持ったこと。指揮者でいえば、熊倉優、原田慶太楼、鈴木優人、三ツ橋敬子。ソリストでは藤田真央、松田華音、辻彩奈、横坂源、阪田知樹といった皆さんの躍進が光りました。N響にとっても、彼ら才能あふれるアーティストにとっても、この度の経験が将来の関係性の礎になり、ひいては日本の音楽界の発展に繋がることを願います。

今までN響と縁の薄かった鈴木雅明、大植英次が指揮台に立ち、記憶に残る名演を繰り広げたことも忘れられません。正指揮者・尾高忠明をはじめ、井上道義、広上淳一、下野竜也といったおな

じみの指揮者陣も、安定感と独自の存在感を示しました。

広がったレパートリー、柔軟さを増したアンサンブル

レパートリーでいえば、小編成の作品を演奏することが、アンサンブルを見つめ直すきっかけになったと言えます。特に、弦楽合奏だけの曲をもう少し演奏したいという要望は、コロナ以前にも若手の

弦のメンバーから挙がっていました。ウェーベルン《緩徐楽章》、コリリャーノ《航海》、G. ウォーカー《弦楽のための叙情詩》、武満《3つの映画音楽》等々、思い起こせばかなりの数に上ります。こんなマニアックな曲を頼んだ覚えはないという恨み節も聞こえてきそうですが……。

近年はモダン・オケの主要レパートリーから外れつつあるハイドンやモーツァルト、意外と演奏機会の少ないシューベルトに取り組めたことも、ドイツ音楽の伝統を継承するN響の未来に、プラスの作用をもたらすのではないかと期待しています。

特別コラム 2020-21シーズンを振り返って

今までなら当然のようにフル編成で演奏していた作品を10型や12型に減らした結果、こうしたサイズでも、やり方によっては満足度の高いサウンドを作れることが実証されました。これを機にN響も、作品のスタイルに合わせて弦の編成を自在に変えることが当たり前になっていくことと思います。

今回のコロナ禍は、私たちに大きな打撃をもたらしましたが、今までのやり方を問い直す機会にもなりました。持ち味であった力強さに柔軟性を加味し、新しい時代に向けて、着実に歩みを進めたいと考える昨今です。

西川彰
NHK交響楽団演奏制作部長

N響百年史

第二十回 近衛秀麿、お預けを食う

片山杜秀
Morihide Katayama

二〇二六年のN響創立百周年に向け、NHK「クラシックの迷宮」のパーソナリティとしても馴染みの思想史研究者で音楽評論家の片山杜秀さんが、時代背景とともにN響の歴史をひもときます。関東大震災後の混乱の中、近衛秀麿がヨーロッパ武者修行から華々しい実績を本土産に帰国。師・山田耕筰との関係やいかに――

師からの巣立ち

1924(大正13)年6月、近衛秀麿が欧州から帰朝した。出発したのは前年の2月だから約1年半の洋行だった。

すでに第14回で触れたとおり、洋行の目的は留学や遊学というのとは恐らく性質が違った。兄で近衛家当主の文鷹公爵から、期間1年という約束で許され、むろん近衛家の資産をたくさん使えるかたちでの、音楽家としての箔付けを試みる、近衛として人生を懸けた短期決戦の旅であった。秀麿は、師匠の山田耕筰にひけをとらない、いや、あわよくば山田を超えるキャリアを1年のうちに獲得したかった。当時の山田の指揮者としての最大実績は、1918(大正7)年と翌年に1回ずつ、ニューヨークでメトロポリタン歌劇場管弦楽団やニューヨーク・フィルハーモニックのメンバーを主体とする臨時混成オーケストラを指揮して、自作やワーグナーによるプログラムを成功させたことであっただろう。目指すはそれ以上でなければならなかった。

近衛秀麿は、洋行時には満25歳。山田の愛弟子として指揮や作曲をいくら披露していたとはいえ、ごく普通に考えれば音楽の素人か玄人か、まだ微妙な身分の一青年に過ぎない。そんな彼が初めての欧州で、しかもたった1年のあいだで何ができるというだろう？ 無茶といえあまりに無茶である。けれど、近衛は期限内にやるべきことができてしまった。近衛の音楽能力に、人間力、交渉力、財力、運も加わっての結果だったろう。天皇に最も近いファミリーといわれた最高位の貴族の家の一員であったことが、欧州で物を言わなかったはずもないだろう。日本政府なり何なり

の陰の働きかけがあったのではないかという推測も、昔からなされ続けているところでもある。真相は永遠に闇の中であろうが。

とにかく近衛は、1923(大正12)年9月の関東大震災で幼い長男を失っても帰国を思いとどまり、日本を発って11か月経った1924年1月18日、ついにベルリン・フィルハーモニー管弦楽団を指揮し、それなりの成功を収めた。プログラムには自作もロシアものもフランスものも入っていた。広いレパートリーを示した。歌曲やコンチェルトの伴奏指揮もこなし。長丁場のシンフォニーでもおのれの解釈を示した。世界の頂点に立つ超一流オーケストラを相手に、ひととおり破綻なくやれどと証明した。とてつもなく大きい、最高の実績であろう。

この厳然たる事実によって、音楽家近衛の株は日本でも急上昇した。要するに、ニューヨークの一流どころのメンバーを集めたとはいえ、所詮は寄せ集めのオーケストラを指揮したに過ぎない山田と、音楽の都としてはニューヨークよりも格上のベルリンで、世界最高ランクのベルリン・フィルそのものを、定期演奏会ではないとはいえ、公式に指揮した近衛とでは、どちらの格が上になるかという話である。高所から歴史のスパンを長めにとってトータルに見れば、山田のほうが相変わらずビッグ・ネームであるともいえるだろう。でも、1924年6月、船で横浜に戻ってきたときの満25歳の近衛は、大家とはいえまだ30代後半の山田に、決して引けをとらない貫禄を得ていた。自信たっぷり帰ってきて、待ち受ける新聞記者たちに宣言してみせた。すぐにも自分のオーケストラを作って、日本の交響楽運動を牽引していくのが希望だと。関東大震災で帝国ホテルを主体とするせっかくの新しい楽団も潰れてしまい、再び空白の訪れている本格的オーケストラ運動に

役割を果たしていきたいのだと。本人の音楽家としての自信と、近衛家の信用や財力が合わさっての発言だろう。

ここで改めて注意すべきは、帰国直後の近衛が、師匠の山田を助けて一緒にやっていく姿勢をもはや示していないところである。近衛は山田の庇護を今後は必要としないつもりだった。ひとりでやっていけると思っていた。とはいえ、近衛はこのあとすぐ山田と絆を結び直す。けれどもその再結合はあまり長続きしない。近衛は山田と袂を分かって新交響楽団を結成し、NHK交響楽団の正史はそこから始まる。そのあたりのいきさつを考えると、1924年の近衛のベルリン・フィル指揮で起きた、近衛と山田の力関係やお互いの気の持ちようの変化に、心致さねばなるまい。弟子は師匠にいつまでも付き従うとは限らない。自立の潮時がある。近衛の山田からの巣立ちは1924年1月であったと思わねばなるまい。そのあとは、山田が立派になった弟子の姿に焦りを覚え、近衛をなんとか手元にひきとめ、味方に付けておこうと、神経を尖らせる時期へとシフトする。近衛のほうは、山田から自立した身とおのれを心得るようになってはいるが、狭い日本の音楽界で喧嘩をしても始まらないので、師として立てられるところは立てる。協力を惜しまない。が、無理にそうせずともよいのなら、手を切ることも厭わない。師弟の関係はそういう新しい段階に入っていた。

音楽界の主導権はどちらへ

さて、帰国から3か月後の9月26日、近衛は自前のオーケストラを編成して帰朝記念の演奏会を開く。けれど、さすがの近衛も、帰国直

後にいきなり、団員と雇用契約を結んで給料を払う常設の管弦楽団を作れたわけではない。あくまでその日1回の本番のための臨時雇いだ。そのメンバーの多くは、関東大震災後に山田が被災者を励まし義捐金を集めるオーケストラ・コンサートのために、やはり臨時で揃えていた人々と重複している。自ずとそうなる。人材に限られるからだ。

大正時代の東京には、上野の音楽学校の卒業者や、陸海軍軍楽隊の除隊者や、百貨店の少年音楽隊から叩き上げて少年の歳を過ぎて辞めざるを得なくなった者など、プロ的ないしセミ・プロ的演奏家をごまんといるにはいた。映画館やホテルの楽士として働く者も多かった。楽士と名の付く者は何百人も存在した。大震災でいったんは中京や関西に逃げた音楽家も大勢あったが、何か月か経て関東も次第に落ち着きを取り戻し、仕事の場も蘇ってくると、とりわけ腕に覚えのある者は良い演奏機会を求めて舞い戻ってくる。けれども、本格的な交響楽の演奏会をやるから、ベートーヴェンやワーグナーや山田耕筰を弾いてくれと急に頼んでも、即応してそれなりに弾いてくれる能力のある演奏家となると、どうしても絞られてしまう。巧者がひしめいているわけではない。だから、山田でも近衛でも、指揮しようというときに、出てもらいたいメンバーはいつも似たような人々になる。ダブるのである。しかも1924年の秋冬となってくると、帰国したばかりの近衛は、自ら率いる上手な常設オーケストラを作るべくまじめに動きだしており、山田のほうはというと、震災でいったん挫折した満洲のハルビンからのロシア人オーケストラの招聘計画を、ソ連からの演奏者も加えるかたちで仕切り直そうとしているときだ。近衛の帰国した頃は、山田のもとにソ連国家のエージェントで

もあるオペラ歌手のアレクサンドル・モジューヒンが訪れている時期とちょうど重なる。山田は、そうやって準備しているロシア人オーケストラの来日を1回限りのイベントには終わらせず、そのあと日露混成か、日本人主体か、まだよくわからないけれど、自分の支配する常設オーケストラに発展させたくてうずうずしている。

となると、山田と近衛のあいだに何が起きるか。想像をめぐらすまでもあるまい。上手な日本人楽士を取り合おうとします。そこで物を言うのは財力の安定性だろう。貧乏の絶えない山田と大華族の近衛相手とでは勝負にならない。かといって、師匠風を吹かせて言いなりにできる存在では、もう近衛はなくなっている。けれども弟子は、日本音楽界の大先達にして指揮はともかく作曲では明らかに上である師匠を立てる気持ちを、まだ失ってはいない。敬意を払っている。とすれば山田は、自分を立てて一緒にやったほうが近衛にとっても日本の音楽界全体にとってもよりよい結果を生むのだというシチュエーションを、絶えず作り続けて、弟子の近衛の気を自分に惹こうとするだろう。師匠を捨てるわけには現実としてゆかず、師匠を立てて仕えたほうが楽壇発展の早道だと、近衛に思わせようとするだろう。事実、山田はそんなストーリーをみごとに作り出し、近衛をしばらく引っ張っていく。

切り札はマーラー！

その話の前に、9月26日の近衛の演奏会に戻ろう。近衛は、震災後の東京で機能していた数少ない大ホールのひとつである丸の内への報知新聞社の講堂で、二管編成の臨時管弦楽団を指揮した。前半にはベートーヴェン

の《交響曲第4番》を置き、後半には欧州から戻ったばかりの音楽家らしく、日本の聴衆にとって新味のあるレパートリーを並べた。まずはドビュッシー作曲、アンリ・ビュセル編曲の《小組曲》。でもドビュッシーなら、山田も大正初頭から紹介を重ねてきてはいる。近衛の本当のとおきはその次だった。グスタフ・マーラーである。1924年だと没後13年。ドイツ・オーストリアではどうしても同世代のリヒャルト・シュトラウスの陰に隠れてしまう作曲家だった。時代遅れな交響曲に最後までこだわって、シュトラウスのように交響詩やオペラへと土俵を転換できず、旧時代に殉じた人のように思われていた。師匠の山田も、マーラーには目もくれず、シュトラウスを賛美していた。そんなマーラーを近衛は欧州で気に入った。たぶん、マーラーの音楽の一面に濃厚に漂うスラヴ的とも東洋的ともいえる哀調が、ロシア音楽同様、日本人好みになりうると感じたのだろう。驚くべき先見の明である。9月26日のコンサートで取り上げたのは、《交響曲第1番「巨人」》だった。でも演奏時間や難度を考えれば、丸々はできない。楽器編成からいっても大きすぎて無理だ。そこで近衛は、第3楽章だけを――すなわち、いかにも日本人に愛されそうなわらべ歌風の主題によるあの葬送行進曲の楽章だけを――ドビュッシーの《小組曲》の管弦楽のサイズになぞらえて自ら編曲し、日本初演した。山田からの自立をめざした近衛の、東京でのオーケストラ運動事始めだった。

山田は近衛の単独行動を当然快く思わない。自分のサークルに引き留められないかと腐心しだす。宮原禎次という作曲家がいた。1899(明治32)年生まれだから近衛よりひとつ年下である。同じ山田門下だった。後にドイツに留学することになる彼が、近衛がマーラーを

振った翌月の10月16日、東京の本郷教会で作品発表会をおこなった。曲目は童謡と歌曲とピアノ独奏曲である。宮原は同門のよしみでピアノ曲の独奏者として近衛に出演を請うた。同じ山田耕筈楽派の一員ではないか。山田のもとに集う仲間ではないか。近衛は出演した。近衛は相変らず山田派であり、ベルリン・フィルを振ったからといって決して奢らず高ぶらず、仲間を大切にしながら続ける音楽家であると、狭い楽壇に印象づける一夜となった。

そのあとは後ろに控えていた山田御大の出演である。山田は12月6日、丸ノ内の工業倶楽部で開かれる予定の「ヤマダ・アーベント」に近衛の出演を依頼した。作曲家としての山田は、ニューヨークから戻ったあと、管弦楽や器楽の分野にはかつてのようには意を注がず、代わりに日本でも需要の豊富な歌曲と童謡に打ち込むようになっていた。山田は童謡の楽譜を出版して儲け、あるいは歌曲のピアノ伴奏をして稼いでいた。12月6日は、ソプラノ歌手の荻野綾子のリサイタルのかたちをとって、山田の歌曲や童謡を、《ペイチカ》とか《かやの木山の》とか《夢の家》とか《芥子粒夫人》とか、作曲家の伴奏で並べていく趣向だったが、その合間合間に山田のピアノ独奏曲をいくつか挟み、近衛にはソリストとしてそれらを全部弾いてもらいたいというのが、山田の頼みであった。伴奏をせよというのではない。ゲストのソリストの扱いである。近衛は師匠の配慮の行き届いた願いを無碍にすることはなかった。震災翌年の師走の夜の都心に、麗しい師弟愛を感じさせるコンサートが演出された。

大同団結

山田は、この秋から冬にかけて、師匠そっこのけで自前の常設プロ・オーケストラを東京に結成しようとひた走りたい弟子を、とりあえず一緒にやろうよと懐柔^{かいじゆう}し続けたのだろう。恐らく師匠は弟子にこう言ったのだ。師を凌駕^{りやうが}するほどの実績をたちまち積んだ若き天才であり、お金の力も伴っている弟子が、ここで師を追い抜いておのれのオーケストラを先に持つのは、道理にかなっているかもしれない。だが、自分は今ちょうど、ハルビンとソ連^{ソ連}から腕利きのロシア人たちを何十人か来日させ、近代日本の音楽史に決定的な局面を作り出そうとしている。そのための細工は進んでいる。ソ連や日本政府の然るべき筋からは、きっと1925（大正14）年1月のうちに、日ソが国交を開くための多年にわたる交渉がついに実るだろうと聞かされており、コンサートもそこからすぐに実現するだろう。そのとき、彼らと混成で臨時の交響楽団を編成するために、日本側にも最良のメンバーが必要となる。楽士を奪い合っている場合ではない。日本最初の長続きする常設プロ・オーケストラを師匠と弟子のどっちが先

に作るかと争うタイミングではない。決して豊かではない日本音楽界の限られた精鋭を洩らさず集めて、大同団結し、日露混成のドリーム・オーケストラを成功させることに集中する時節が訪れている。新しい常設オーケストラを誰がどう作るかは、そのあとの話でもよいではないか。まずは何のしがらみもないかたちで、ドリーム・オーケストラによっておこなわれるだろう全国ツアーを、師匠と弟子が対等の重みで振り分けよう！

日ソ基本条約が締結された1925年1月20日の直後、近衛はドイツの友人に宛てた手紙にこんなふう書いている。「夢のような指揮の仕事が舞い込んだので、当分はそれに傾注します」。このようにして、1924年6月に帰国した近衛がすぐおち上げた、近衛自らが率いて山田の居場所は作らない新オーケストラの設立構想は、しばしのお預けを食ったのである。

文 | 片山杜秀（かたやま もりひで）

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファシズム』『見果てぬ日本』ほか著書多数。

次回予告

1925年（大正14年）4月、山田耕筰と近衛秀麿の師弟はタッグを組み、ついに「日露交歓交響管弦楽演奏会」が開催されます。この大イベントが日本の洋楽史にもたらしたインパクトとは――。

特別支援・特別協力・賛助会員

Corporate Membership

特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長 間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長 吉田淳一
株式会社 みずほ銀行	頭取 藤原弘治
公益財団法人 渋谷育英会	理事長 小丸成洋

特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長 Christian Wiedmann
ユナイテッド航空会社	アジア太平洋・大西洋地区営業担当副社長 Marcel Fuchs
全日本空輸株式会社	代表取締役社長 平子裕志
株式会社 松尾楽器商会	代表取締役 松尾治樹
ヤマハ株式会社	代表執行役社長 中田卓也
株式会社 パレスホテル	代表取締役社長 吉原大介

賛助会員

・ 常陸宮	・ (株)アドバンストアールエフデザイン 代表取締役 田中 進	・ AGC(株) 代表取締役兼社長執行役員 平井良典
・ (株)アートレイ 代表取締役 小森活美	・ イーソリューションズ(株) 代表取締役社長 佐々木経世	・ SMBC日興証券(株) 代表取締役会長 川崎靖之
・ (株)アイシン 取締役社長 伊勢清貴	・ EY新日本有限責任監査法人 理事長 片倉正美	・ SCSK(株) 代表取締役 社長執行役員 最高執行責任者 谷原 徹
・ 葵設備工事(株) 代表取締役社長 安藤正明	・ 池上通信機(株) 代表取締役社長 清森洋祐	・ (株)NHKアート 代表取締役社長 小野木昌史
・ アサヒグループホールディングス(株) 代表取締役社長兼CEO 勝木敦志	・ 伊東国際特許事務所 会長 伊東忠彦	・ (一財)NHK インターナショナル 理事長 小泉公二
・ (株)朝日工業社 代表取締役社長 高須康有	・ 井村屋グループ(株) 代表取締役会長 浅田剛夫	・ NHK 営業サービス(株) 代表取締役社長 松原洋一
・ 朝日信用金庫 理事長 橋本 宏	・ (株)インターネットイニシアティブ 代表取締役会長 鈴木幸一	・ (株)NHK エデュケーションナル 代表取締役社長 田波宏視
・ 有限責任 あずさ監査法人 理事長 高波博之	・ (株)ウイングツッ 代表取締役 福田健二	・ (一財)NHK エンジニアリングシステム 理事長 山本 真
・ アットホーム(株) 代表取締役社長 鶴森康史		

- ・(株)NHKエンタープライズ
代表取締役社長 | 安齋尚志
- ・(学)NHK学園
理事長 | 浜田泰人
- ・(株)NHKグローバルメディアサービス
代表取締役社長 | 荒木裕志
- ・(-財)NHKサービスセンター
理事長 | 黄木紀之
- ・(株)NHK出版
代表取締役社長 | 森永公紀
- ・(株)NHKテクノロジーズ
代表取締役社長 | 大橋一三
- ・(株)NHKビジネスクリエイト
代表取締役社長 | 谷弘聡史
- ・(株)NHKプロモーション
代表取締役社長 | 風谷英隆
- ・(-財)NHK放送研修センター
理事長 | 原田達也
- ・(株)エヌオーイー
代表取締役社長 | 橋本肇
- ・(株)NTTドコモ
代表取締役社長 | 井伊基之
- ・(株)NTTファシリティーズ
代表取締役社長 | 松原和彦
- ・ENEOSホールディングス(株)
代表取締役社長 社長執行役員
大田勝幸
- ・荏原冷熱システム(株)
代表取締役 | 庄野 道
- ・大崎電気工業(株)
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・大塚ホールディングス(株)
代表取締役社長兼CEO | 樋口達夫
- ・(株)大林組
代表取締役社長 | 蓮輪賢治
- ・オールニッポンヘリコプター(株)
代表取締役社長 | 柳川 淳
- ・岡崎耕治
- ・沖電気工業(株)
代表取締役社長執行役員 | 鎌上信也
- ・小田急電鉄(株)
取締役社長 | 星野晃司
- ・花王(株)
代表取締役 社長執行役員
長谷部佳宏
- ・カシオ計算機(株)
代表取締役社長 | 櫻尾和宏
- ・鹿島建設(株)
代表取締役社長 | 押味至一
- ・(株)加藤電気工業所
代表取締役 | 加藤浩章
- ・角川歴彦
- ・(株)金子製作所
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチュア・エンタテインメント(株)
代表取締役社長 | 中西一雄
- ・(株)関電工
取締役社長 | 仲摩俊男
- ・(株)かんぼ生命保険
取締役兼代表執行役社長 | 千田哲也
- ・キッコーマン(株)
取締役名誉会長 | 茂木友三郎
- ・(株)CURIOUS PRODUCTIONS
代表取締役 | 黒川幸太郎
- ・(株)教育芸術社
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス
代表取締役 | 三宅国紀
- ・(株)共同通信会館
代表取締役 | 牧野和宏
- ・(-社)共同通信社
社長 | 水谷 亨
- ・キリンホールディングス(株)
代表取締役社長 | 磯崎功典
- ・キングレコード(株)
代表取締役 | 村上 潔
- ・(学)国立音楽大学
理事長 | 山田晴彦
- ・グラフェンプラットフォーム(株)
代表取締役 | 長谷川正治
- ・京王電鉄(株)
代表取締役 | 紅村 康
- ・京成電鉄(株)
代表取締役社長 | 小林敏也
- ・KDDI(株)
代表取締役社長 | 高橋 誠
- ・京浜急行電鉄(株)
取締役社長 | 原田一之
- ・(医)社団 恒仁会
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)サウンド&ミュージック クリエーション
代表取締役 | 河合由里子
- ・佐川印刷(株)
代表取締役会長 | 木下宗昭
- ・(株)サコ コンサルタント
取締役 総務部長 | 大森 保
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)
代表取締役 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ
代表取締役社長 | 富田 稔
- ・サントリーホールディングス(株)
代表取締役社長 | 新浪剛史
- ・(株)ジャパン・アーツ
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)ジュビターテレコム
代表取締役社長 | 石川雄三
- ・(株)小学館
代表取締役社長 | 相賀昌宏
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ
代表取締役社長 | 白川亜弥
- ・新赤坂クリニック
院長 | 松木隆央
- ・信越化学工業(株)
代表取締役会長 | 金川千尋
- ・新菱冷熱工業(株)
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・(株)スカパーJSATホールディングス
代表取締役社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原
代表取締役社長 | 古江訓雄
- ・スズキ(株)
代表取締役社長 | 鈴木俊宏
- ・鈴木美代
- ・住友商事(株)
代表取締役社長執行役員 CEO
兵頭誠之
- ・住友電気工業(株)
社長 | 井上 治
- ・住友電設(株)
取締役社長 | 坂崎全男
- ・セイコーホールディングス(株)
代表取締役会長兼グループ CEO
服部真二

- ・聖徳大学
学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)
取締役社長 | 喜多村樹美男
- ・関彰商事(株)
代表取締役会長 | 関 正夫
- ・(株)セノン
代表取締役 | 小谷野宗晴
- ・(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長 CEO | 村松俊亮
- ・損害保険ジャパン(株)
取締役社長 | 西澤敬二
- ・第一三共(株)
代表取締役会長 | 中山譲治
- ・ダイキン工業(株)
取締役社長 | 十河政則
- ・大成建設(株)
代表取締役社長 | 相川善郎
- ・高砂熱学工業(株)
代表取締役社長 | 小島和人
- ・(株)ダク
代表取締役 | 福田浩二
- ・(株)竹中工務店
取締役執行役員社長 | 佐々木正人
- ・田原 昇
- ・中央日本土地建物(株)
代表取締役社長 | 平松哲郎
- ・中外製薬(株)
代表取締役社長 | 奥田 修
- ・(株)電通
代表取締役 社長執行役員 | 五十嵐 博
- ・(株)TOKAIホールディングス
代表取締役社長 | 鶴田勝彦
- ・東海旅客鉄道(株)
代表取締役社長 | 金子 慎
- ・東急(株)
取締役社長 | 高橋和夫
- ・(株)東急文化村
代表取締役社長 | 中野哲夫
- ・(株)東京交通会館
取締役社長 | 八木橋孝男
- ・東信地所(株)
代表取締役 | 堀川利通
- ・東武鉄道(株)
取締役社長 | 根津嘉澄
- ・桐朋学園大学
学長 | 梅津時比古
- ・東邦ホールディングス(株)
代表取締役会長 | 濱田矩男
- ・(株)東北新社
代表取締役社長 | 中島信也
- ・(-財)凸版印刷三幸会
代表理事 | 足立直樹
- ・トヨタ自動車(株)
代表取締役社長 | 豊田章男
- ・内外施設工業(株)
取締役会長 | 林 正道
- ・中銀グループ
代表 | 渡辺蔵人
- ・中山武之
- ・日鉄興和不動産(株)
代表取締役社長 | 今泉泰彦
- ・日本カイン(株)
代表取締役社長 | 小林 茂
- ・(株)日本国際放送
代表取締役社長 | 城本 勝
- ・日本通運(株)
代表取締役社長 | 齋藤 充
- ・日本電気(株)
代表取締役執行役員社長兼CEO
森田隆之
- ・日東紡績(株)
取締役 代表執行役社長 | 辻 裕一
- ・(-財)日本放送協会共済会
理事長 | 北爪秀樹
- ・日本郵政(株)
取締役兼代表執行役社長 | 増田寛也
- ・(株)ニフコ
代表取締役社長兼COO | 柴尾雅春
- ・(株)日本デジコム
代表取締役 | 竹井裕二
- ・野村ホールディングス(株)
代表執行役社長 | 奥田健太郎
- ・パナソニック(株)
代表取締役社長 | 津賀一宏
- ・(有)パルフェ
代表取締役 | 伊藤良彦
- ・東日本電信電話(株)
代表取締役社長 | 井上福造
- ・(株)日立製作所
執行役社長 | 東原敏昭
- ・(株)フォトロン
代表取締役 | 瀧水 隆
- ・福田三千男
- ・富士通(株)
代表取締役社長 | 時田隆仁
- ・富士通フロンテック(株)
代表取締役社長 | 川上博予
- ・古川建築音響研究所
所長 | 古川宣一
- ・(株)朋栄ホールディングス
代表取締役 | 清原慶三
- ・(株)放送衛星システム
代表取締役社長 | 井上樹彦
- ・(公)放送文化基金
理事長 | 濱田純一
- ・ホクト(株)
代表取締役 | 水野雅義
- ・前田工織(株)
代表取締役社長兼COO | 前田尚宏
- ・(株)松尾楽器商会
代表取締役 | 松尾治樹
- ・丸紅(株)
代表取締役社長 | 柿木真澄
- ・溝江建設(株)
代表取締役社長 | 溝江 弘
- ・三井住友海上火災保険(株)
代表取締役 | 舩曳真一郎
- ・(株)三井住友銀行
頭取 | 高島 誠
- ・三菱商事(株)
代表取締役社長 | 垣内威彦
- ・三菱電機(株)
執行役社長 | 杉山武史
- ・(株)緑山スタジオ・シティア
代表取締役社長 | 難波一弘
- ・三橋産業(株)
代表取締役会長 | 三橋洋之
- ・三原穂積
- ・(学)武蔵野音楽学園
理事長 | 福井直敬
- ・(株)明治
代表取締役社長 | 松田克也

・(株)明電舎
取締役社長 | 三井田 健

・(株)目の眼
代表 | 櫻井 恵

・森ビル(株)
代表取締役社長 | 辻 慎吾

・森平舞台機構(株)
代表取締役 | 森 健輔

・山田産業(株)
代表取締役 | 山田裕幸

・(株)山野楽器
代表取締役社長 | 山野政彦

・(株)ヤマハミュージックジャパン
代表取締役社長 | 押木正人

・ユニオンツール(株)
代表取締役会長 | 片山貴雄

・米澤文彦

・(株)読売広告社
代表取締役社長 | 藤沼大輔

・(株)読売旅行
代表取締役社長 | 坂元 隆

・リコージャパン(株)
代表取締役 社長執行役員
坂主智弘

・料亭 三長
代表 | 高橋千善

・(株)リブレ
代表取締役社長 | 鈴木信也

・(有)ルナ・エンタープライズ
代表取締役 | 戸張誠二

・ローム(株)
代表取締役社長 社長執行役員
松本 功

・YKアクロス(株)
代表取締役社長 | 中野健次

(五十音順、敬称略)

NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいております。当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：『フィルハーモニー』、『年間パンフレット』、『第9』演奏会プログラム等にご芳名を記載させていただきます。

N響主催公演のご鑑賞の機会を設けます。

遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL: 03-5793-8120

NHK交響楽団

首席指揮者：パーヴォ・ヤルヴィ

名誉音楽監督：シャルル・デュトワ

桂冠名誉指揮者：ヘルベルト・ブロムシュテット

桂冠指揮者：ウラディーミル・アシュケナージ

正指揮者：外山雄三、尾高忠明

第1コンサートマスター：篠崎史紀

コンサートマスター：伊藤亮太郎

ゲスト・コンサートマスター：白井圭

第1ヴァイオリン

青木 調
字根京子
大鹿由希
倉富亮太
後藤 康
小林玉紀
高井敏弘
猶井悠樹
中村弓子
降旗貴雄
○松田拓之
宮川奈々
○森田昌弘
○山岸 努
□横島礼理
○横溝耕一

第2ヴァイオリン

○大林修子
○大宮臨太郎
木全利行
齋藤麻衣子
嶋田慶子
○白井 篤
鈴木弘一
○田中晶子
坪井きらら
丹羽洋輔
平野一彦
船木陽子
俣野賢仁
○三又治彦
宮里親弘

矢津将也
山田慶一
横山俊朗
米田有花

ヴィオラ

◎佐々木 亮
☆中村翔太郎
小野 聡
小島茂隆
□坂口弦太郎
谷口真弓
飛澤浩人
○中村洋乃理
松井直之
御法川雄矢
○村松 龍
山田雄司

チェロ

◎辻本 玲
◎藤森亮一
市 寛也
小島幸法
三戸正秀
中 実穂
○西山健一
○藤村俊介
宮坂拓志
村井 将
○山内俊輔
渡邊方子

コントラバス

◎吉田 秀
☆市川雅典
☆西山真二
稻川永示
○岡本 潤
今野 京
佐川裕昭
本間達朗
矢内陽子

フルート

◎甲斐雅之
◎神田寛明
梶川真歩
菅原 潤
中村淳二

オーボエ

◎青山聖樹
◎吉村結実
池田昭子
坪池泉美
和久井 仁

クラリネット

◎伊藤 圭
◎松本健司
山根孝司

ファゴット

◎宇賀神広宣
◎水谷上総
佐藤由起
菅原恵子
森田 格

ホルン

◎今井仁志
◎福川伸陽
石山直城
勝俣 泰
木川博史
野見山和子

トランペット

◎菊本和昭
◎長谷川智之
安藤友樹
山本英司

トロンボーン

◎古賀 光
◎新田幹男
池上 亘
栗田雅勝
黒金寛行
吉川武典

テューバ

池田幸広

ティンパニ

◎植松 透
◎久保昌一

打楽器

石川達也
黒田英実
竹島悟史

ハープ

早川りさこ

ステージ・マネージャー

徳永匡哉
深畑一徳

ライブラリアン

沖 あかね
木村英代

(五十音順、◎首席、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター)

NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Paavo Järvi

Music Director Emeritus: Charles Dutoit

Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt

Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy

Permanent Conductors: Yuzo Toyama, Tadaaki Otaka

First Concertmaster: Fuminori Maro Shinozaki

Concertmaster: Ryotaro Ito

Guest Concertmaster: Kei Shirai

1st Violins

- Shirabe Aoki
- Kyoko Une
- Yuki Oshika
- Ryota Kuratomi
- Ko Goto
- Tamaki Kobayashi
- Toshihiro Takai
- Yuki Naoi
- Yumiko Nakamura
- Takao Furihata
- Hiroyuki Matsuda
- Nana Miyagawa
- Masahiro Morita
- Tsutomu Yamagishi
- Masamichi Yokoshima
- Koichi Yokomizo

2nd Violins

- Nobuko Obayashi
- Rintaro Omiya
- Toshiyuki Kimata
- Maiko Saito
- Keiko Shimada
- Atsushi Shirai
- Koichi Suzuki
- Akiko Tanaka
- Kirara Tsuboi
- Yosuke Niwa
- Kazuhiko Hirano
- Yoko Funaki
- Kenji Matano
- Haruhiko Mimata
- Chikahiro Miyazato
- Masaya Yazu
- Yoshikazu Yamada
- Toshiro Yokoyama
- Yuka Yoneda

Violas

- Ryo Sasaki
- ☆ Shotaro Nakamura
- Satoshi Ono
- Shigetaka Obata
- Gentaro Sakaguchi
- Mayumi Taniguchi
- Hiroto Tobisawa
- Hironori Nakamura
- Naoyuki Matsui
- # Yuya Minorikawa
- Ryo Muramatsu
- Yuji Yamada

Cellos

- Rei Tsujimoto
- Ryoichi Fujimori
- Hiroya Ichi
- Yukinori Kobatake
- Masahide Sannohe
- Miho Naka
- Ken'ichi Nishiyama
- Shunsuke Fujimura
- Hiroshi Miyasaka
- Yuki Murai
- Shunsuke Yamanouchi
- Masako Watanabe

Contrabasses

- Shu Yoshida
- ☆ Masanori Ichikawa
- ☆ Shinji Nishiyama
- Eiji Inagawa
- Jun Okamoto
- Takashi Konno
- Hiroaki Sagawa
- Tatsuro Honma
- Yoko Yanai

Flutes

- Masayuki Kai
- Hiroaki Kanda
- Maho Kajikawa
- Jun Sugawara
- Junji Nakamura

Oboes

- Satoki Aoyama
- Yumi Yoshimura
- Shoko Ikeda
- Izumi Tsuboike
- Hitoshi Wakui

Clarinets

- Kei Ito
- Kenji Matsumoto
- # Takashi Yamane

Bassoons

- Hironori Ugajin
- Kazusa Mizutani
- Yuki Sato
- Keiko Sugawara
- Itaru Morita

Horns

- Hitoshi Imai
- Nobuaki Fukukawa
- Naoki Ishiyama
- Yasushi Katsumata
- Hiroshi Gigawa
- Kazuko Nomiyama

Trumpets

- Kazuaki Kikumoto
- Tomoyuki Hasegawa

Tomoki Ando
Eiji Yamamoto

Trombones

- Hikaru Koga
- Mikio Nitta
- Ko Ikegami
- Masakatsu Kurita
- Hiroyuki Kurogane
- Takenori Yoshikawa

Tuba

Yukihiro Ikeda

Timpani

- Toru Uematsu
- Shoichi Kubo

Percussion

Tatsuya Ishikawa
Hidemi Kuroda
Satoshi Takeshima

Harp

Risako Hayakawa

Stage Manager

Masaya Tokunaga
Kazunori Fukahata

Librarian

Akane Oki
Hideyo Kimura

(○ Principal, ☆ Acting Principal, ○ Vice Principal, □ Acting Vice Principal, # Inspector)

Music Tomorrow 2021 | 発売中

東京オペラシティ コンサートホール

2021年6月22日(火) 7:00pm ※尾高賞授賞式・プレトークは6:30pm～

指揮: 杉山洋一 | ピアノ: 吉川隆弘

西村 朗 / 華開世界オーケストラのための(2020) [N響委嘱作品 / 世界初演]

間宮芳生 / ピアノ協奏曲 第2番(1970) [第19回尾高賞受賞作品]

細川俊夫 / オーケストラのための「渦」(2019) [第68回尾高賞受賞作品]

主催: NHK / NHK交響楽団

共催: 公益財団法人東京オペラシティ文化財団

助成: 芸術文化振興基金 / 公益財団法人三菱UFJ信託芸術文化財団 / 公益財団法人アフィニス文化財団 /

公益財団法人ローム ミュージック ファンデーション

夏だ! 祭りだ!! N響ほっとコンサート～オーケストラ・世界音楽選手権～ | 発売中

東京芸術劇場 コンサートホール

2021年8月1日(日) 3:30pm

指揮: 原田慶太楼 | ナビゲーター: 篠原ともえ

オッフエンバック / 喜歌劇「天国と地獄」序曲

アンダソン / フィドル・ファドル

サン・サーンス(扶間美帆編) / 組曲「動物の謝肉祭」—“かめ”

ヨハン・シュトラウスII世 / 常動曲

チャイコフスキー / 組曲「くるみ割り人形」—“トレバーク”

外山雄三 / 管弦楽のためのラプソディー“八木節”

ヴォーン・ウィリアムズ / テューバ協奏曲—第3楽章(テューバ: 池田幸広)

リーバーマン / ピッコロ協奏曲—第3楽章(ピッコロ: 梶川真歩)

ストラヴィンスキー / バレエ組曲「火の鳥」—“カッチェイ王の魔の踊り”

ムソルグスキー(ラヴェル編) / 組曲「展覧会の絵」—“バーバ・ヤガーの小屋”“キエフの大きな門”

主催: NHK / NHK交響楽団

後援: 豊島区

WEBチケットN響
(手数料無料)

チケットのご予約は、スマートフォンやPCから、
座席を選んで簡単にチケットが確保できる
「WEBチケットN響」が便利です。



お問い合わせ:
N響ガイド TEL 03-5793-8161
※ 営業日・営業時間はN響ホームページをご覧ください。

9月定期公演の聴きどころ

公演企画担当者から

1年7か月ぶりに再開するN響定期公演。ハプスブルク帝国の辺縁に生まれたハイドン、マーラー、バルトークにスポットを当てる。3人の作曲家は、それぞれのルーツに根ざした音楽言語を駆使し、自作を人類共通の遺産へと昇華させた。

沼尻が満を持して臨む《巨人》 オッテンザマーの清新なモーツァルト

[池袋Aプログラム]はウィーンゆかりの作曲家モーツァルトとマーラーの組み合わせ。《クラリネット協奏曲》のソリスト、アンドレアス・オッテンザマーは著名な音楽一家の出身で、若くしてベルリン・フィルの首席を務める。正統派のエリートと見られがちだが、活動の幅は決してその範疇はんちゆうに留まらない。自由な中にも気品をたたえた演奏で、古典中の古典に清新な息吹をもたらすだろう。

後半はおなじみの《巨人》。指揮の沼尻竜典は、かつて小澤征爾の助手としてこの曲のバックステージ演奏を手伝った経験を持つ。

それから30年あまり、若い頃には制御が難しかった《巨人》の複雑さを、ようやく手の内にしつつあると自信を覗かせる。自然との調和や東洋風の味わいなど、日本人にも共感しやすい要素をふんだんにはら孕みつつ、高らかな勝利で締めくくる人気曲にどんなアプローチで迫るのか、興味は尽きない。

古楽界の巨匠と新時代の旗手が投射する バロック・古典作品の新たな魅力

[Bプログラム]の指揮は、2年ぶりのN響登場となるトン・コープマン。言わずと知れた古楽界の大家ながら、近年は名だたるモダン・オケにもたびたび客演している。今回はバロックから古典にかけて、3世代のスタイルの変遷が一望できる音楽の旅。先代の影響を色濃く受けながら、独自の世界を切り開いた作曲家たちの個性が鮮やかに浮かび上がる。有名な〈アリア〉を含むバッハの《組曲第3番》に続くのは、その息子C. P. E. バッハの《チェロ協奏曲》。吹きこぼれんばかりの情

感は、ハイドンの「疾風怒濤」を先取りすると
言っても過言ではない。モダンとピリオドの境
界を自在に行き来する新時代の旗手ニコラ・
アルトシュテットが、曲に新たな光を投射する。

後半は、功成り名遂げたハイドン晩年の
傑作《交響曲第98番》。「交響曲の父」の異
名に恥じぬ完成された様式美は、風通しの
良い清々しさが持ち味のコープマンにふさわ
しい。

**首席指揮者P. ヤルヴィのラスト・シーズン
最重要レパートリー《オケコン》、再び**

大幅リニューアルとなる「池袋Cプログラ
ム」では、豪華な顔ぶれの指揮者陣が、コン
パクトながら選りすぐりのプログラムをお届け
する。初回を飾るのはパーヴォ・ヤルヴィのバ
ルトーク。

《管弦楽のための協奏曲》は彼の最重要レ

パートリーで、N響とは6年前の首席指揮者
就任直後にも演奏し、評判を呼んだ。主役と
なる楽器が次々に入れ替わりながら、オーケス
トラと濃密な掛け合いを展開するこの曲は、
名手ぞろいのN響メンバーがその技量を発
揮するのに打ってつけと言える。パーヴォは
過去のインタビューで「曲の持つ悲劇的な要
素を浮き彫りにすることが大切」と語っている。
特にシンメトリー構造の中心をなす第3楽章
〈エレジー〉が、表現上の鍵となりそうだ。

《中国の不思議な役人》では、前衛的なリ
ズムとオーケストレーションが炸裂、生演奏の
大迫力を味わえる。首席指揮者として最後の
シーズンを迎えるパーヴォの熱演に期待した
い。

[西川彰一/NHK交響楽団演奏制作部長]

※mélomane：フランス語で「音楽愛好家」の意

池袋 A
9/25 土 6:00pm
9/26 日 2:00pm
東京芸術劇場 コンサートホール

モーツァルト／クラリネット協奏曲 イ長調 K. 622
マーラー／交響曲 第1番 二長調「巨人」
指揮：沼尻竜典
クラリネット：アンドレアス・オッテンザマー



B
9/15 水 7:00pm
9/16 木 7:00pm
サントリーホール

バッハ／組曲 第3番 二長調 BWV1068
C. P. E. バッハ／チェロ協奏曲 イ短調
ハイドン／交響曲 第98番 変ロ長調 Hob. I-98
指揮：トン・コープマン
チェロ：ニコラ・アルトシュテット



池袋 C
9/10 金 7:30pm
9/11 土 2:00pm
東京芸術劇場 コンサートホール

バルトーク／組曲「中国の不思議な役人」
バルトーク／管弦楽のための協奏曲
指揮：パーヴォ・ヤルヴィ



NHK交響楽団定期公演 2021-22シーズンプログラム (2021年9月～2022年6月)

首席指揮者バーク・ヤルヴィ、桂冠名誉指揮者プロムシュテットをはじめ、ルイージ、ソヒエフ、エツェンバッハ、ヤノフスキなど、世界のクラシック音楽界をリードする指揮者たちが次々登場し、多彩なプログラムを披露します。また、レヴィット(ピアノ)、カヴァコス、ハーン(ヴァイオリン)、ミューラー・ショット(チェロ)など、最高峰のソリストたちも集結します。

※2021年5月現在の情報です。今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

リニューアルのご案内

新シーズンでは、N響ならではの豪華な出演者や充実した演目は従来通りのままに、リニューアルします。

池袋

Aプログラム (東京芸術劇場)

- **会場&シリーズ名変更**：NHKホールの改修工事に伴い、東京芸術劇場に会場を変更し「池袋Aプログラム」として開催します(2022年6月まで)。
- **2日目(日曜日)の開演時刻の変更**：2:00pmに変更します。
- **1回券料金の変更**：1回券の金額の見直しを行いました。公演ごとに価格は異なります。

Bプログラム (サントリーホール)

- **開催回数の変更**：サントリーホールの改修工事に伴い、2022年4月公演の開催を休止します。1日目、2日目ともに通常9回ずつの開催を、8回ずつに変更します。
- **1回券料金の変更**：1回券の金額の見直しを行いました。公演ごとに価格は異なります。
- **ユースチケットの拡大**：Bプログラムの1回券にも対象を拡大。25歳以下の方であればお得にチケットをお求めいただけます。

池袋

Cプログラム (東京芸術劇場)

- **会場&シリーズ名変更**：NHKホールの改修工事に伴い、前シーズンに引き続き東京芸術劇場に会場を変更し「池袋Cプログラム」として開催します(2022年6月まで)。
- **全公演「休憩なし&60～80分程度の公演」**に：これまで休憩を含め2時間程度だった公演を、コンパクトな「休憩なし&60～80分程度」に変更。
- **1回券、定期会員券の料金をよりリーズナブルに**：1回券の金額の見直しを行いました。S席7,400円～D席3,200円(一般料金、税込)と、よりリーズナブルにお楽しみいただけます。これに合わせて定期会員券の価格も見直しました。
- **1日目(金曜日)の開演時刻の変更**：公演のコンパクト化に伴い30分繰り下げ、7:30pmに変更します。2日目(土曜日)は従来通り2:00pm開演です。
- **「開演前の室内楽」の開催**：N響メンバーによる「開演前の室内楽」を池袋Cプログラム限定で行います。1日目は6:45pm、2日目は1:15pmよりホールの舞台上で開催します。ご自身の座席で約15分のミニコンサートをお楽しみください。

A・B・Cプログラム共通

- **お得なセレクト券**
「WEBセレクト3+」の導入
Autumn(9～11月)、Winter(12～2月)、Spring(4～6月)の各シーズンで行われる9つの定期公演のうち、1回券を1度に3公演以上まとめて購入すると、1回券の一般料金より約8%割引いたします。座席・券種も自由にお選びいただけます(WEBチケットN響のみで販売)。

詳細は下のQRコードから



N響ホームページ
(ニュース:N響定期リニューアル)

休止となった2020-21シーズン定期会員券の継続手続きをされたお客様には、「会員券更新のご案内」を5月下旬にお送りしました。

PROGRAM

池袋

A

東京芸術劇場 コンサートホール

[土] 6:00pm

[日] 2:00pm

※ NHKホールの改修工事に伴い、定期公演Aプログラムは東京芸術劇場(池袋)に会場を移し、「池袋Aプログラム」として行います。
 ※ 2日目の開演時刻は1時間繰り上げ、2:00pmとさせていただきます(1日目は今まで通り6:00pm開演)。
 ※ 1回券料金が公演ごとに異なります。

2021

September

09

第1938回

9/25 [土] 6:00pm

9/26 [日] 2:00pm

充実一途のベテラン
沼尻竜典とマーラーに鋭く切り込む

モーツァルト／クラリネット協奏曲 イ長調 K. 622
マーラー／交響曲 第1番 二長調「巨人」

指揮：沼尻竜典
クラリネット：アンドレアス・オッテンザマー

一般	ユースチケット
S ¥8,900	S ¥5,500
A ¥7,400	A ¥4,500
B ¥5,800	B ¥3,500
C ¥4,700	C ¥2,500
D ¥3,700	D ¥1,500

2021

October

10

第1939回

10/16 [土] 6:00pm

10/17 [日] 2:00pm

第1次世界大戦の傷跡が滲むニルセンの問題作を
プロムシュテットが振る

ブラームス／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品77
ニルセン／交響曲 第5番 作品50

指揮：ヘルベルト・プロムシュテット
ヴァイオリン：レオニダス・カヴァコス

一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥5,800
A ¥8,400	A ¥4,800
B ¥6,700	B ¥3,800
C ¥5,400	C ¥2,800
D ¥4,400	D ¥1,800

2021

November

11

第1942回

11/13 [土] 6:00pm

11/14 [日] 2:00pm

音楽の都、ウィーンの伝統の結晶
フランツ・シュミットの《交響曲第2番》

ウェーバー／歌劇「魔弾の射手」序曲
リスト／ピアノ協奏曲 第2番 イ長調
フランツ・シュミット／交響曲 第2番 変ホ長調

指揮：ファビオ・ルイーゼ
ピアノ：アレクサンドロ・タヴェルナ

一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥5,800
A ¥8,400	A ¥4,800
B ¥6,700	B ¥3,800
C ¥5,400	C ¥2,800
D ¥4,400	D ¥1,800

2021

December

12

第1945回

12/4 [土] 6:00pm

12/5 [日] 2:00pm

男女の心の綾を精妙に描く
シェーンベルク初期の傑作を聴く

ブラームス／ハイドンの主題による変奏曲 作品56a
R. シュトラウス／4つの最後の歌
シェーンベルク／浄められた夜 作品4

指揮：山田和樹
ソプラノ：佐々木典子

一般	ユースチケット
S ¥8,900	S ¥5,500
A ¥7,400	A ¥4,500
B ¥5,800	B ¥3,500
C ¥4,700	C ¥2,500
D ¥3,700	D ¥1,500

2022

01

January

第1948回

1/15 土 6:00pm

1/16 日 2:00pm

原田慶太楼と反田恭平が捧げる
ポーランド、パリへのオマージュ

ショパン(グラスノフ編)／軍隊ポロネーズ イ長調 (管弦楽版)
ショパン(ストラヴィンスキー編)／夜想曲 変イ長調 (管弦楽版)
パデレフスキ／ポーランド幻想曲 作品19*

ストラヴィンスキー／バレエ音楽「火の鳥」(1910年版)

指揮：原田慶太楼 ピアノ：反田恭平*

一般	ユースチケット
S ¥8,900	S ¥5,500
A ¥7,400	A ¥4,500
B ¥5,800	B ¥3,500
C ¥4,700	C ¥2,500
D ¥3,700	D ¥1,500

2022

02

February

第1951回

2/5 土 6:00pm

2/6 日 2:00pm

バーヴォ・ヤルヴィ、レヴィットと究める
ドイツロマン主義の精髓

ブラームス／ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83

シューマン／交響曲 第2番 ハ長調 作品61

指揮：バーヴォ・ヤルヴィ

ピアノ：イゴール・レヴィット

一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥5,800
A ¥8,400	A ¥4,800
B ¥6,700	B ¥3,800
C ¥5,400	C ¥2,800
D ¥4,400	D ¥1,800

2022

04

April

第1954回

4/9 土 6:00pm

4/10 日 2:00pm

ドイツ最高峰の巨匠と紡ぐ
ベートーヴェンの「舞踏交響曲」

ドヴォルザーク／序曲「謝肉祭」作品92

モーツァルト／フルート協奏曲 第1番 ト長調 K. 313

ベートーヴェン／交響曲 第7番 イ長調 作品92

指揮：クリストフ・エッセンバッハ

フルート：スタティス・カラバノス

一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥5,800
A ¥8,400	A ¥4,800
B ¥6,700	B ¥3,800
C ¥5,400	C ¥2,800
D ¥4,400	D ¥1,800

2022

05

May

第1956回

5/14 土 6:00pm

5/15 日 2:00pm

こだわりの名匠と一から再構築する
シューベルトの巨大な音楽遺産

シューマン／ヴァイオリン協奏曲 二短調

シューベルト／交響曲 第8番 ハ長調 D. 944「ザ・グレート」

指揮：マレク・ヤノフスキ

ヴァイオリン：アリョーナ・バーエフ

一般	ユースチケット
S ¥8,900	S ¥5,500
A ¥7,400	A ¥4,500
B ¥5,800	B ¥3,500
C ¥4,700	C ¥2,500
D ¥3,700	D ¥1,500

2022

06

June

第1959回

6/11 土 6:00pm

6/12 日 2:00pm

フランス音楽と文学の幸せなマリージュ
その耽美的な世界に身を委ねる

デュカス／バレエ音楽「ペリ」(ファンファーレつき)

ラヴェル／シェエラザード*

ドビュッシー／牧神の午後への前奏曲

フロラン・シュミット／バレエ組曲「サロメの悲劇」作品50

指揮：ステファヌ・ドゥネーヴ

メゾ・ソプラノ：ステファニー・ドゥストラック*

一般	ユースチケット
S ¥8,900	S ¥5,500
A ¥7,400	A ¥4,500
B ¥5,800	B ¥3,500
C ¥4,700	C ¥2,500
D ¥3,700	D ¥1,500

(以上、すべて税込)

年間会員券(9回) | S ¥65,970 A ¥56,610 B ¥44,010 C ¥35,730 D ¥27,540 D(ユースチケット) ¥9,000(税込)

シーズン会員券(3回) | S ¥23,820 A ¥19,860 B ¥15,570 C ¥12,540 D ¥9,480 D(ユースチケット) ¥3,900(税込)

PROGRAM

B

サントリーホール

[水] 7:00pm

[木] 7:00pm

※サントリーホールの改修工事に伴い、2022年4月の公演は開催を休止します。
※1回券料金が公演ごとに異なります。

2021

September

09

第1937回

9/15 [水] 7:00pm

9/16 [木] 7:00pm

古楽の巨星が新たな命を吹き込む
バロック・古典の名品

バッハ／組曲 第3番 二長調 BWV1068
C. P. E. バッハ／チェロ協奏曲 イ短調
ハイデン／交響曲 第98番 変ロ長調 Hob. I-98
指揮：トン・コブマン
チェロ：ニコラ・アルトシュテット

一般	ユースチケット
S ¥8,900	S ¥5,500
A ¥7,400	A ¥4,500
B ¥5,800	B ¥3,500
C ¥4,700	C ¥2,500
D ¥3,700	D ¥1,500

2021

October

10

第1941回

10/27 [水] 7:00pm

10/28 [木] 7:00pm

プロムシュテットが慈しんで奏でる
母国スウェーデンの傑作と《運命》

ステンハンマル／セレナード へ長調 作品31
ベートーヴェン／交響曲 第5番 ハ短調 作品67
指揮：ヘルベルト・プロムシュテット

一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥5,800
A ¥8,400	A ¥4,800
B ¥6,700	B ¥3,800
C ¥5,400	C ¥2,800
D ¥4,400	D ¥1,800

2021

November

11

第1944回

11/24 [水] 7:00pm

11/25 [木] 7:00pm

ルイージの十八番
チャイコフスキー《交響曲第5番》を堪能する

パガニーニ／ヴァイオリン協奏曲 第1番 二長調 作品6
チャイコフスキー／交響曲 第5番 ホ短調 作品64
指揮：ファビオ・ルイージ
ヴァイオリン：フランチェスカ・デゴ

一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥5,800
A ¥8,400	A ¥4,800
B ¥6,700	B ¥3,800
C ¥5,400	C ¥2,800
D ¥4,400	D ¥1,800

2021

December

12

第1947回

12/15 [水] 7:00pm

12/16 [木] 7:00pm

期待の俊英指揮者による
ドイツ・オーストリア音楽を俯瞰するプログラム

ハイデン／交響曲 第22番 変ホ長調 Hob. I-22「哲学者」
HK グルーバー／エアリアル[日本初演]*
R. シュトラウス／交響詩「ツァラトウストラはこう語った」
作品30

指揮：ディマ・スロボドニューク
トランペット：ホーカン・ハーデンベルガー*

一般	ユースチケット
S ¥8,900	S ¥5,500
A ¥7,400	A ¥4,500
B ¥5,800	B ¥3,500
C ¥4,700	C ¥2,500
D ¥3,700	D ¥1,500

2022

01

January

第1950回

1/26 水 7:00pm

1/27 木 7:00pm

色彩の魔術師・ツヒエフがセレクトする
プロkofイエフの煌めく名品

プロkofイエフ／歌劇「戦争と平和」―「ワルツ」
プロkofイエフ／ピアノ協奏曲 第3番 八長調 作品26
プロkofイエフ／交響曲 第5番 変ロ長調 作品100

指揮：トゥガン・ツヒエフ
ピアノ：ハオチェン・チャン

一般

ユースチケット

S ¥8,900 S ¥5,500

A ¥7,400 A ¥4,500

B ¥5,800 B ¥3,500

C ¥4,700 C ¥2,500

D ¥3,700 D ¥1,500

2022

02

February

第1953回

2/16 水 7:00pm

2/17 木 7:00pm

バーヴォ・ヤルヴィ&ハーンの
イギリス&アメリカ・プログラム

ブリテン／歌劇「ピーター・グライムズ」
―4つの海の間奏曲 作品33a
バーバー／ヴァイオリン協奏曲 作品14
エルガー／変奏曲「謎」作品36

指揮：バーヴォ・ヤルヴィ
ヴァイオリン：ヒラリー・ハーン

一般

ユースチケット

S ¥9,800 S ¥5,800

A ¥8,400 A ¥4,800

B ¥6,700 B ¥3,800

C ¥5,400 C ¥2,800

D ¥4,400 D ¥1,800

2022

04

April

サントリーホールの改修工事に伴い、
公演の開催を休止します。

2022

05

May

第1958回

5/25 水 7:00pm

5/26 木 7:00pm

名キャプテンルイージと
大海原を音楽で航海する

メンデルスゾーン／序曲「静かな海と楽しい航海」作品27
ラヴェル／ピアノ協奏曲 ト長調
リムスキー・コルサコフ／交響組曲「シェエラザード」作品35

指揮：ファビオ・ルイージ
ピアノ：小菅 優

一般

ユースチケット

S ¥9,800 S ¥5,800

A ¥8,400 A ¥4,800

B ¥6,700 B ¥3,800

C ¥5,400 C ¥2,800

D ¥4,400 D ¥1,800

2022

06

June

第1961回

6/22 水 7:00pm

6/23 木 7:00pm

しなやかに、颯爽と！
鈴木優人のモーツァルト《ジュピター》

バッハ（鈴木優人編）／パッサカリアとフーガ 八短調 BWV582
ブリテン／ヴァイオリン協奏曲 作品15
モーツァルト／交響曲 第41番 八長調 K. 551「ジュピター」

指揮：鈴木優人
ヴァイオリン：郷古 廉

一般

ユースチケット

S ¥8,900 S ¥5,500

A ¥7,400 A ¥4,500

B ¥5,800 B ¥3,500

C ¥4,700 C ¥2,500

D ¥3,700 D ¥1,500

(以上、すべて税込)

年間会員券(8回) | S ¥58,640 A ¥50,320 B ¥39,120 C ¥31,760 D ¥24,480 D(ユースチケット) ¥8,000(税込)

※Bプログラムではシーズン会員券の販売は行いません

PROGRAM

池袋

C

東京芸術劇場 コンサートホール

[金] 7:30pm / [土] 2:00pm

- ※ NHKホールの改修工事に伴い、定期公演Cプログラムは前シーズンに引き続き東京芸術劇場(池袋)に会場を移し、「池袋Cプログラム」として行います。
- ※ 休憩のない、60～80分程度の公演となります。
- ※ 1日目の開演時刻は、7:30pmに変更させていただきます。2日目は前シーズンに引き続き、2:00pm開演です。
- ※ 1回券と定期会員券の料金を変更しました。
- ※ 開演前に舞台上で、N響メンバーによる室内楽のミニコンサートを行います(15分程度、1日目:6:45pm～/2日目:1:15pm～)。室内楽演奏中の客席への出入りは自由です。

2021

September

09

第1936回

9/10 [金] 7:30pm

9/11 [土] 2:00pm

バルヴォ・ヤルヴィ&N響のバルトーク第3弾
名作《オケコン》を再び!

バルトーク / 組曲「中国の不思議な役人」
バルトーク / 管弦楽のための協奏曲

指揮:バルヴォ・ヤルヴィ

一般	ユースチケット
S ¥7,400	S ¥4,500
A ¥6,500	A ¥4,000
B ¥5,200	B ¥3,000
C ¥4,200	C ¥2,000
D ¥3,200	D ¥1,400

2021

October

10

第1940回

10/22 [金] 7:30pm

10/23 [土] 2:00pm

巨匠が愛情をこめて奏でる
グリーグとドヴォルザークの名作

グリーグ / 「ペール・ギュント」組曲 第1番 作品46
ドヴォルザーク / 交響曲 第8番 ト長調 作品88

指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット

一般	ユースチケット
S ¥7,400	S ¥4,500
A ¥6,500	A ¥4,000
B ¥5,200	B ¥3,000
C ¥4,200	C ¥2,000
D ¥3,200	D ¥1,400

2021

November

11

第1943回

11/18 [木] ※ 7:30pm

11/19 [金] 7:30pm

ブルックナーに情熱を傾ける
ルイーゼの《交響曲第4番「ロマンチック」》

ブルックナー / 交響曲 第4番 変ホ長調「ロマンチック」

指揮:ファビオ・ルイーゼ

※通常土曜日の公演(池袋C-2)を木曜日7:30pmに開催します

一般	ユースチケット
S ¥7,400	S ¥4,500
A ¥6,500	A ¥4,000
B ¥5,200	B ¥3,000
C ¥4,200	C ¥2,000
D ¥3,200	D ¥1,400

2021

December

12

第1946回

12/10 [金] 7:30pm

12/11 [土] 2:00pm

飛躍を遂げたロシアの気鋭が
10年ぶりにN響の指揮台に立つ

チャイコフスキー / ロココ風の主題による変奏曲 作品33*
ムソルグスキー(ラヴェル編) / 組曲「展覧会の絵」

指揮:ワシーリ・ペトレンコ
チェロ:ダニエル・ミュラー・ショット*

一般	ユースチケット
S ¥7,400	S ¥4,500
A ¥6,500	A ¥4,000
B ¥5,200	B ¥3,000
C ¥4,200	C ¥2,000
D ¥3,200	D ¥1,400

2022

01

January

第1949回

1/21 金 7:30pm

1/22 土 2:00pm

濃密なロマンの香りを放つ
ソヒエフのブラームスブルッフ／ヴァイオリン協奏曲 第1番ト短調 作品26
ブラームス／交響曲 第3番 へ長調 作品90指揮：トゥガン・ソヒエフ
ヴァイオリン：ワディム・グルズマン

一般	ユースチケット
S ¥7,400	S ¥4,500
A ¥6,500	A ¥4,000
B ¥5,200	B ¥3,000
C ¥4,200	C ¥2,000
D ¥3,200	D ¥1,400

2022

02

February

第1952回

2/11 金 祝 7:30pm

2/12 土 2:00pm

バーヴォ・ヤルヴィ&N響が大管弦楽で描く
アルプスの壮大なパノラマR. シュトラウス／バレエ音楽「ヨセフの伝説」から交響的断章
R. シュトラウス／アルプス交響曲 作品64

指揮：バーヴォ・ヤルヴィ

一般	ユースチケット
S ¥7,400	S ¥4,500
A ¥6,500	A ¥4,000
B ¥5,200	B ¥3,000
C ¥4,200	C ¥2,000
D ¥3,200	D ¥1,400

2022

04

April

第1955回

4/15 金 7:30pm

4/16 土 2:00pm

孤高の巨匠が迫るマーラーの本質
——エッシェンバッハの《交響曲第5番》

マーラー／交響曲 第5番 嬰ハ短調

指揮：クリストフ・エッシェンバッハ

一般	ユースチケット
S ¥7,400	S ¥4,500
A ¥6,500	A ¥4,000
B ¥5,200	B ¥3,000
C ¥4,200	C ¥2,000
D ¥3,200	D ¥1,400

2022

05

May

第1957回

5/20 金 7:30pm

5/21 土 2:00pm

ルイージと丹念に磨き込む
ウィーン古典派の名品モーツァルト／歌劇「ドンジョヴァンニ」序曲
モーツァルト／ピアノ協奏曲 第20番 二短調 K. 466
ベートーヴェン／交響曲 第8番 へ長調 作品93指揮：ファビオ・ルイージ
ピアノ：アレクサンドル・メルニコフ

一般	ユースチケット
S ¥7,400	S ¥4,500
A ¥6,500	A ¥4,000
B ¥5,200	B ¥3,000
C ¥4,200	C ¥2,000
D ¥3,200	D ¥1,400

2022

06

June

第1960回

6/17 金 7:30pm

6/18 土 2:00pm

仏米2人の作曲家が伝える
1920～30年代 パリの息吹プーランク／バレエ組曲「牝鹿」
プーランク／オルガン協奏曲ト短調
ガーシュウィン／パリのアメリカ人指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ
オルガン：オリヴィエ・ラトリー

一般	ユースチケット
S ¥7,400	S ¥4,500
A ¥6,500	A ¥4,000
B ¥5,200	B ¥3,000
C ¥4,200	C ¥2,000
D ¥3,200	D ¥1,400

(以上、すべて税込)

年間会員券(9回) | S ¥56,610 A ¥49,725 B ¥39,780 C ¥32,130 D ¥24,480 D(ユースチケット) ¥8,820(税込)
 シーズン会員券(3回) | S ¥19,890 A ¥17,520 B ¥14,010 C ¥11,250 D ¥8,550 D(ユースチケット) ¥3,780(税込)

チケットのご案内(定期公演 2021年9月～2022年6月)

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日 [11:00amからの受付]	9-10-11月	8月4日[水](会員) / 8月9日[月・休](一般)
	12-1-2月	10月26日[火](会員) / 10月31日[日](一般)
	4-5-6月	3月2日[水](会員) / 3月6日[日](一般)

※今後の状況によっては発売日が変更になる場合があります

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～30%お得です！(割引率は公演や券種によって異なります)

- ※ Aプログラム、CプログラムはNHKホール改修工事に伴い、会場をNHKホールから東京芸術劇場(池袋)に移して「池袋Aプログラム」「池袋Cプログラム」として行います
- ※ Bプログラムはサントリーホール改修工事に伴い、2022年4月公演を休止するため全8回となります。シーズン会員券の販売はございません
- ※ 池袋Cプログラムは2021-22シーズンから会員券の料金を変更させていただきます

発売開始日 [11:00amからの受付]	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	7月15日[木](会員) / 7月18日[日](一般)
	シーズン会員券(Winter)	10月15日[金](会員) / 10月21日[木](一般)
	シーズン会員券(Spring)	2月22日[火](会員) / 2月25日[金](一般)

※今後の状況によっては発売日が変更になる場合があります

料金(税込)

券種	S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
年間会員券(9回) [池袋A]	¥65,970 (¥7,330)	¥56,610 (¥6,290)	¥44,010 (¥4,890)	¥35,730 (¥3,970)	¥27,540 (¥3,060)	¥9,000 (¥1,000)
年間会員券(8回) [B]	¥58,640 (¥7,330)	¥50,320 (¥6,290)	¥39,120 (¥4,890)	¥31,760 (¥3,970)	¥24,480 (¥3,060)	¥8,000 (¥1,000)
年間会員券(9回) [池袋C]	¥56,610 (¥6,290)	¥49,725 (¥5,525)	¥39,780 (¥4,420)	¥32,130 (¥3,570)	¥24,480 (¥2,720)	¥8,820 (¥980)

券種	S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
シーズン会員券(3回) [池袋A]	¥23,820 (¥7,940)	¥19,860 (¥6,620)	¥15,570 (¥5,190)	¥12,540 (¥4,180)	¥9,480 (¥3,160)	¥3,900 (¥1,300)
シーズン会員券(3回) [池袋C]	¥19,890 (¥6,630)	¥17,520 (¥5,840)	¥14,010 (¥4,670)	¥11,250 (¥3,750)	¥8,550 (¥2,850)	¥3,780 (¥1,260)

※()内は1公演あたりの単価

WEBセレクト3+

お好きな公演を3つ以上セレクトすると、1回券がお得になります。Autumn(9～11月)、Winter(12～2月)、Spring(4～6月)の各シーズン内の公演(9プログラム18公演)のうち、3公演以上まとめて購入すると、1回券の一般料金より約8%割引いたします。座席・券種は自由にお選びいただけます。

※ WEBチケットN響のみでの販売となります

※ 1回券発売日からお申し込みいただけます

ユースチケット

25歳以下の方へのお得なチケットです。1回券と定期会員券(D席)でご利用いただけます。料金は各公演の情報をご覧ください。

※ N響ガバのみの販売となります

※ 25歳以下の証明となるものをご提示いただきます

お問い合わせ

N響ガイド | TEL 03-5793-8161

※営業日、営業時間はN響ホームページをご覧ください。

www.nhkso.or.jp

Please follow us on



Iwatani

水素で 世界を動かせ。

時代が問う。人類は次の100年を託せるエネルギーを持っているか。

私たちには、水素がある。燃焼してもCO₂を排出せず、

大きなパワーを生み、枯渇することがない水素は今、

発電、車両、鉄道、船舶、製鉄などさまざまな分野で、

脱炭素エネルギーの主役として大きな期待を集めている。

だから、もっと進もう。2050年、温暖化ガス排出実質ゼロ社会の実現を目指して。

水素で、社会を、時代を、世界を動かせ。

日本には、未来を変えるエネルギーがある。

水素シェア No.1[※]

Iwatani

岩谷産業株式会社

※岩谷産業株式会社は、水素ガスの販売において国内市場シェア約70%を占めています。(2020年12月現在、自社調べ)